

3 STOP!

動く歩道

……95・4—96・1



九五年四月、東京都事は市民派と言われていた青島幸男に替わった。都市博覧会の開催後、「動く歩道」を西口地下通路に移設する計画は、青島の「都市博中止」決定により頓挫したかに見えた。ところが、東京都は都市博の開催に關係なく「動く歩道」を強引に西口に引き込んで来た。「高齢者や障害者の通行の利便性を高めるため」と、もっともらしい設置理由を掲げていたものの、その実は都庁に向かう地下メイン通路から、野宿労働者を一掃したいというのが、都の本音であった。

新宿連絡会は、「ストップ！ 動く歩道」を掲げて、大衆的なキャンペーン行動を始めた。

九月末から九日間の連続集中行動を組み、東京都を包囲する社会化を目的とする大衆行動を展開。「動く歩道」に關わる諸機関への押しかけなどを大胆に組織した。第一次集中行動は、百五〇名が結集した十月一日の対都庁抗議デモに集約された。連絡会は、計画の調整機関としてあつた都・企画審議室長あてに「申し入れ書」を提出し、基本的に話し合いで工事に伴うダンボール村の撤去問題を解決しようとの立場を表明した。つまり連絡会は最初から「実力阻止」を掲げていたわけではない。互いの意見を出し合い、着工前に納得のいく対策が出されれば、合意の上で自主退去する構えを持っていたのである。

十月二〇日、青島は定例の記者会見でダンボールハウスの撤去問題に触れ、「あの方々は独特の人生観と哲学をお持ち。住まいや仕事の世話をしあげようと言つても放つておいてくれと言う。迷惑をかけていることにはそれなりの認識を」という暴言を吐き、野宿労働者から激しい抗議の声が上がった。青島の暴言は、野宿労働者への根強い差別と偏見を表したものであり、東京都の本音を吐露したものであつた。

「ストップ！ 動く歩道」第二次キャンペーン行動は、青島発言を弾劾し、連日の都庁倉庫り込みを続け、十月二十七日には渋谷の青島官邸への抗議デモを取行、緊急の闘争にもかかわらず労働者百名の結果を勝ち取つた。

十一月の第三次行動は、「野宿するが故に強いられる不利益に、仲間の団結でやり返そう！」とのスローガンの下、大衆的な労働争議に踏み込む。仕事が無く野宿を強いられる労働者の足元を見て、タコ部屋に監禁し、無賃金の強制労働を強いる暴力飯場への押しかけ争議の勝利を勝ち取るのである。

埼玉県寄居町にある正田建設は、上野公園で労働者を手配して飯場に監禁。二十四時間の監視、日本刀やゴルフク

ラブを使つての暴力支配などを、二十人以上の暴力装置を使つて維持してきた文字通りのタコ部屋Ⅱ刑務所飯場であった。監禁された労働者たちは、川を泳ぎ崖を飛び降りて命からがら逃げ、上野の公園で山谷からのパトロールで出会った。「正田には誰も立ち向かうことはできない」と労働者の間で語り継がれてきた恐怖のタコ部屋飯場を撃つ闘いを、新宿で野宿を強いられた労働者たちが竹竿を持ち、飯場を制圧して闘い抜いたのだ。

一方、東京都は連絡会の趣旨を全く理解しようとし、頑強に話し合いを拒否し続け、一方的な「立ち退き保障策」を決定してしまふ。十二月八日にマスコミ発表された、工事決定と港区芝浦の収容所設置の知らせは、話し合いでの解決という道を一方的に断ち切られた最後の通告であつた。連絡会は初めて「実力阻止」を掲げる。

「もはや我々の居住地は、行政の保障ではなく我々自身の手で守つていくしか、他に手段はなくなつた」——この思ひは四号街路に起居する労働者をはじめ、新宿野宿労働者の共通の思ひとなつていった。

十二月十五日と二十五日の夜十一時、都は自主退去を呼びかけるピラ配布（周知）に、大量のガードマンを引き連れて来るが、配布は二度とも阻止された。越年闘争明けの一月十三日、都は最後のピラ配布を新宿署警察官の応援を得て暴力的に実行、警察は野宿労働者を含む三名を逮捕、内一名に重傷を負わせる。一・二三の暴挙は、東京都が力づくでダンボールハウスの撤去を行なう具体的な宣言でもあつた。

一月十三日以降、新宿連絡会は現場での臨戦体制に入り、終日の監視活動を展開した。連絡会は二十二日に「東京都への最終通告」と名付けた話し合い解決の最後の提案を都に行なうが、応答は全くない。撤去の前日、大阪釜ヶ崎から大型バス勝利号を満杯にする派遣応援部隊が到着、現場の志気は高まつた。

そして遂にその日はやつてきた。「午前三時に撤去開始、五時までに撤去を終了する」との情報が入り、当日は午前二時に結集、四号街路西口出入口に移動し、植木のプランターやベニヤ板などを使ったバリケードが瞬く間に構築され、前面には横断幕が設置された。そしてスクラムがガツチリと組まれた。

「東京都は俺らとの話し合いを拒否し、実力排除するのか 強制撤去実力阻止！」

話し合いでの平和的・民主的解決を呼びかける我々に対し、強制力を行使し実力で襲いかかるのが誰なのかを明確にさせたいという思いが、このスローガンに込められていた。闘いはマスコミを通じて世界に伝えられた。

**青島都政を俺らの声で変えて行こう  
第3次署名活動から7/5(水)都議会傍聴行動へ!**

95・6・25

仲間たち!

ジメジメした季節ももう少しだ。仲間つながりをもっともつと深めながら、新宿で生き抜く陣形を強固に作りだそう。

水曜日のピラで報告した通り、俺たちは、19、20と連続した対都行動をやり切ったぞ。トータル3773名の東京都との団体交渉を求める署名簿を青島知事に提出し、都議会本会議では60名の仲間が大挙、傍聴行動に参加し、青島知事への期待をこめた激励行動をやり切った。

俺たちの取り組みはマスコミを含め、各界から大きな反響を呼んでいる。青島知事も、俺らの問題が都政にとって重要な課題であることを認識しただろう。

俺らはこの新たに切り開いた東京都とのたたかいの成果をどんどん宣伝しながら、さらに東京都を追いつめていく決意を固めている。

都市博が中止したのだから、4号街路の「動く歩道」など必要ではないし、追い出しもまた必要じゃなくなるんだ。青島さんがやらなきゃならない事は、俺たちの生きる権利を認め、追い出しの策動を一切中止し、俺たちが仕事につけるよう、住む場所を見つけれられるよう、生活保護を取れるよう、そのための条件整備をまずは整えることだ。そして、「都区検討会」はそのためにも、まず俺たちと真摯に話し合いをすることだ。

仲間たち! 俺らの声で青島都政を変えて行こう! 俺らは(第3次)署名活動を継続するこ

とを決定した。毎週金曜日の署名活動に集中しながら7・5(水)再度、都議会に登場するぞ。俺らを「傍聴させるな」と暴言を吐いた都議・大西を許さず、議会事務局との大衆団交を成功させよう。

俺らは新宿で仲間の横のつながりを作りながら、粘り強く生き抜いてやるぞ。都は、俺らに仕事と住居と福祉をもつて来い!

明日は月曜福祉行動だ。梅雨の時期は冬場に無理をしていた体が急にガタが来る季節だ。毎年、この時期、多くの仲間が亡くなっている。渋谷でも先月から立て続けに3名の仲間が亡くなっている。とりわけ持病のある仲間は気をつけて行こう。そして、病院に入った仲間、寮やドヤに入った仲間も、せつかく取った生活保護を廃止されないよう注意しよう。

病気や生活保護の事で困っている仲間は、明日、朝8時半インフォメ前に集まり、みんなで福祉に行こう!

そして、午後からは、土木部へみんなで行って申し入れ行動を行なうぞ。この間、水曜会議でみんなで話し合った結果、エルタワー前の区立トイレをもっと開放してもらおう。トイレの紙はきちんと補充するようにしてもらおう。中央公園の水道の水の量をもっと多くしてもらおう。歩道橋の下とかの撤去作業についても強引にやらないように申し入れよう、と話し合われた。

俺らの声を区・土木部にぶつけて行くぞ。昼、区役所前で飯を食ったあと、午後から出発だ。

先週の金曜日は、B通路を重点的に側溝、床、を掃除し、プランターに殺虫剤を撒いた。

これから虫が大量に発生する季節になる。俺たちは殺虫剤の散布は繰り返しして行きたいと考えている。虫の発生源など気が付いたら俺たちに知らせしてくれ。今週の金曜日も、今回やり残した京王新線の方の大掃除を行なうぞ。午後、1時半から3時半くらいまでです。みんな協力してくれ！

新宿連絡会

さあ！俺らの夏まつりまであと1週間だ！  
追い出しに反対する俺らの団結を夏まつりで！！

95・8・6

仲間たち！

第2回新宿夏まつりまであと1週間だ。今週はその準備のために、何かと忙しくなる。皆の力をあわせ、俺らの祭りを成功させよう。

12日(土曜)は前夜祭だ。夜6時からインフォメ前に祭壇を作り、この1年の間に亡くなった仲間に俺らのたまたかの成果を報告しよう。見津君や、「なぎさ寮」入寮中に亡くなった倉島さんや、路上や病院や施設で亡くなった多くの新宿の仲間達をしのび、そして「生き残った」俺たちの明日を共に考えて行こう。

13日(日)は中央公園、ジャブジャブ池よこの広場での夏まつり本番だ。準備作業は昼12時から着手だ。夏まつりの炊き出しは、飯以外は全部新宿で調理することになった。まぜ御飯の具を

夏まつり 盆時期、それぞれの事情で故郷に帰れない下層労働者、野宿者が支援と一緒に、盆踊りなどを行なうイベント。

作ったり、おかずを作ったりと炊事関係の準備も一杯ある。また、会場整備や買い出しやら、やることはたくさんある。是非、準備から手伝ってくれ。

そして、4時から夏まつり第1部が始まる。散髪屋の受付も4時からだ。俺らのこの1年の取り組みが分かる写真展や、ビデオ上映など、工夫をこらした出し物を中心に、会場を俺らの憩いの場にして行きたい。

6時からステージを中心にした企画だ。炊き出しの配食もこの時間からだ。みんなで飯を食いながら、プロの歌や、仲間の歌を聞き、ゲームで遊び、そして盆踊りを皆で踊りながら真夏の新宿で大いに楽しもう。9時終了予定で、参加賞も最後に出るぞ。

俺らは、金がなくても、みんなが分けへだてなく楽しめる祭りに行きたいと思っている。誰でも参加でき、誰でも楽しめる、そんな祭りを俺らの力で実現して行こう。この日だけは、日々の厳しさを忘れ、裸の人間として楽しもうや。ただし、喧嘩はご法度。これだけは守つてくれ!

新宿連絡会

### 声明・ダンボール小屋火災を口実にした追い出し策動に反対する

95.8.6

8月2日、午前3時20分頃、西口地下4号街路(都庁側)東海銀行キャッシュコーナー横(E28・29)のダンボールハウスが出火した。幸い発見が比較的早く、近くの仲間や警備員の力で消

防車が来る前に火は消し止められ、また、ケガ人もなかった。

出火の原因はまだ分かっていない。が、その日の午後、東京都・建設局、第三建設事務所の職員6、7名が4号街路を徘徊し、従前の警告書の上に「火災が発生したので、下記の注意事項について改めて警告する」旨の新たな警告書（三建と新宿署の連名、何故か新宿区は抜けている）を貼って回った。その際、ある仲間に、三建の職員は「こんな事件を起こしやがって、今度は徹底してやるからな」と恫喝して行った。

奇しくも、この事件の前日、京王新線地下通路にも新たな警告書が貼りめぐらされていた。8月1日付、京王電鉄新宿駅長、新宿警察署長連名のこの警告書は、「新宿駅構内における秩序維持および防火対策のため、以下の行為を行なった場合は、駅構内の利用を制限させていただきます。ご了承ください。」と、ダンボールの持ち込みや、寝ころび、徘徊を禁止しているものだ。

新宿駅周辺で野宿をする我々は、この警察、行政、駅が一体となった一連の警告の動きを重大な関心をもって注目している。

我々は、煙草の不始末など火の元には注意しようと、通路で寝ている仲間に呼び掛け、パトロールを行ない、また、消火器も会として保有し、設置している。その中で、今回、不幸にも我々の思い及ばず火災が発生してしまっただが、この事故が通路や人に大きな被害を与えずに済んだ事は、周辺で寝ている仲間達の警備員とも連携した迅速な消火活動によるものである。



「野宿者がいるから火災が起こる。防火対策として野宿者を排除しよう」。一連の警告書が語っているこの論理を受け入れる事はとうてい出来ない。「秩序維持」や「防火対策」という理由で我々を追い出そうとする事は、オウムムの3件の新宿事件を許した新宿警察署の失態を強権的（治安管理として）に取り繕うためだけのものであり、また、「防火対策」をまともにやった事のない行政（4号街路には灰皿が一つもない。また、都庁側通路は車道からの避難口を1年以上にわたり実質閉鎖している事など）の無策を取り繕うだけのものである。自分の失態や無策を棚にあげて、強引な論理を振りかざすやり方に誰が共感しようか？

社会的な弱者である我々をスケープゴートにしながら、権力の威信を計る方法はもはや歴史的に通用しない。社会矛盾を隠蔽し、見せかけだけの美観を優先する都市のもろさは、神戸市の経験が如実に物語っているではないか。

もし、道路管理者が本気で通路の「防火対策」をしたのであれば、そこで寝ている我々一人一人に呼びかけ協力をあおげばいい。防災訓練や消火訓練でもやればいい。消火器を配ることも必要だ。通行人の煙草のポイ捨てを注意し、灰皿を置くことも必要だ。我々は立ち退き以外の事ならなんでも協力する。

考えても見よ、『都区拡大検討会』での我々野宿者への就労・住宅をも含む総合的対策が遅々として進まぬ状況の中、我々は長期にわたる野宿生活を余儀なくされているのだ。我々が通路で野宿せざるを得ないのは、端的に言って、東京都の怠慢である。そして、この現象の中で起こる全ての問題のツケは東京都が払うべきである。道路管理者はこのことを肝に命じよ。縦割り行政を

良い事に、警察から脅かされて独自の判断でもしたら、局長以下、管理職の首が飛ぶであろう。

我々新宿野宿者は、我々の納得する「対策」が出そうまで、新宿から立ち退きはしない。

もし、我々の居住地に手をかける者があつたなら、我々はあらゆる手段を行使し、これと最後まで闘う。

新宿連絡会

**10月撤去策動をぶつつげせ!**

**東京都第3建設事務所による4号街路「動く歩道」建設10月着工を許さん  
工事を名目としたタンホールハウス二斉撤去強制立ち退きを阻止するぞ!**

95・9・3

仲間たち!

都の謀略が明らかになった。この10月、新宿駅西口地下通路（4号街路）の南北通路の「動く歩道」建設について乗り出してくることを奴等は決定した。そして、この工事にあわせ、奴等は「路上廃材撤去作業」（俺らをゴミ扱いする一斉撤去強制立ち退き）を再開させ、新宿西口から野宿者を一掃する事を再度企てようとしている。

おいつめられた東京都が、ついにその刃をむきだしにし、俺らに襲いかかろうとしているのだ。そして、追い出したとの批判をかわすがために、奴等は今、必死になって収容施設を探している。たった2週間の収容と引き換えに新宿から出て行けと奴等は俺らに強要してくるつもりなのだ。

笑止千万! 俺らが2・17を忘れたと思っているのか? 同じ事をやるのなら、もう少しまと

もな事を考えたらどうだ。

東京都・建設局よ。どんな立派な箱モノ（収容施設）をつくろうとも、当事者をのけものにして進められているこの計画は、正真正銘の「強制立ち退き」に他ならない。国連人権委員会の決議すら無視し、そんなに国際世論を敵にまわしたいのか？ 都市博中止で国際的な信用のおちている東京都のイメージを更に失墜させたいのか？

「立派な」国際都市トーキョーは、ホームレスの対策を何一つせず、強制立ち退きだけを繰り返し、ホームレスの住家すら強引に奪って、ホームレスの生活を更に苦しめようとしている。こんな都市が人権を口に出来ると思うのか？ こんな都市が世界に通用すると思うのか？

建設局の官僚どもは、目先の判断で、俺たちを追い出す事ばかり考えているから、そんな常識的な事すら思い浮かばないようだ。そして、2・17と同様の事をやったら、どう言う事になるのか。そんな事も分からなくなっているようだ。

縦割り行政の官僚どもよ、お前らがやろうとしている前代未聞の茶番劇のツケは誰が払う。こんどは何人殺す気だ？ こんどは何人路頭に迷わす気だ？ それは福祉の問題で建設局は関係ないのか？ 何人殺そうが自分の仕事をしていればいいのか？ 自分の仕事のためには人を殺してもいいのか？

建設局よ。力で俺らをねじ伏せたいのなら、そうすれば良い。俺らを新宿から追い払いたいのなら、堂々とそうすれば良い。ホームレスの連中はゴミと同じだと宣言してみろ。下手な小細工は卑怯だ。

が、俺らをあまりなめたらとんでもない事になる事だけは忠告してやろう。必死で生きている人々の平和な生活を力で脅かすことが、どういう事になるのか、はっきりと記憶に刻んでおく事だ。俺らには失うものは何もない。お前らが力でやってくるのなら、俺らも力で対決するのみだ。殺すなら殺せ！ だが、それ相応の報復だけは覚悟しておけ！ お前らにその勇気があるのなら、俺らは堂々とこの計画を受けて立とう。

仲間たち！ 姑息な手段や、まわりくどいやり方はもうこりこりだ。奴等が来るなら、直接攻防でケリをつけてやろう。新宿700人の仲間の団結した力が勝つか、東京都が勝つか現場でケリをつけてやるのがつとり早い。

俺らは新宿で誰に迷惑をかけた訳でもない。俺らは人間として労働者として当然な事を要求しながら、筋を通し新宿で生きて来た。

俺たち新宿野宿者には誰にも負けない自尊心がある。仲間の団結した力がある。それを破壊したいのなら破壊しに来い！ 俺らはトコトン闘ってやる。俺らは俺らの街、落ちぶれた人間にも人情味を忘れないこの街、新宿を仲間の力で絶対に守り抜いて見せる。

仲間たち！ 反撃の火の手をあげよう。9・8（金）東京都第三建設事務所への申し入れ行動から10月撤去反対の大運動が開始される。仲間の力を見せつけ、奴等に撤去がどうかを思いしらせてやろう。仲間の力を出し切れれば10月撤去は必ずや阻止出来る。仲間の力を信じ、10月撤去策動をぶっつぶそう！

## 12億の工事資金提供者 宝くじ協会に40名が乗りこみ 工事に協力するなど申し入れ

95・9・26

仲間たち！

ストップ「動く歩道」集中行動、2日目、今日は、朝の都庁ビラまきの後、「動く歩道」に10数億もの資金を提供する事になっている永田町にある日本宝くじ協会へ申し入れ行動を行なった。山谷からの応援含め40名ちかい仲間が永田町のとあるビルの5Fにある日本宝くじ協会へ全員で乗り込む。昨日の武山交渉、都庁座り込みの大成功を受け、みな意気揚々だ。

対応に出て来たのが、宝くじ協会、事務局次長の坂戸氏だ。狭い事務所であったが、東京都と違い、追いつくようなこともせずに、全員を迎え入れてくれた。宝くじ協会は宝くじの売上の2%（年間で150億）を宝くじの普及・宣伝のため公共事業に使うなどの仕事をしている。今年度の東京都への寄付が、都市博覧会で使う予定であった「動く歩道」であった。それを東京都は勝手な理由で新宿にもつてこようとしている。

俺たちは「もし、工事が着工になれば、100人以上の仲間が追い出されることになる、野宿労働者への対策がないかぎり人道的な立場から工事計画への出資を中止してもらいたい」旨の申し入れ書を提出し、それぞれ仲間から現状と要望を訴えた。それに対し、坂戸次長は「確かに今年度は都市博でつかう予定であった動く歩道に約10億円の予算を組んでいる」「都市博中止決定以降、東京都からは動く歩道を新宿にもつて行きたいとは聞いているが、それは、まだ正式な話ではない」「事業内容や場所を変えるには、変更届けが必要だ。その変更届けはまだ届いていないし、

宝くじ協会 公営ギャンブルをもたない都政で、それに代わる役割を果たしているのが宝くじ協会の収益金。「動く歩道」も当初は、これでまかなわれる予定であった。

新宿設置についてはまだ東京都との協議もしていない。変更届けが出ても、理事会でそれを承認しなければならぬ」と返答。東京都の連中は、出資者である宝くじ協会にすら、俺たちを追い出す事業の説明はおろか、変更届も出していないことが今回、あらたに判明。奴等は何も知らない宝くじ協会をまるめこんで、工事の直前に事業の変更の承認を取り付けようと考えていただろうが、そうはいくか！俺らは、追い出し工事に寄付することは、何の宝くじの普及、宣伝には何もつながらぬ。工事の性格と目的、そして工事のされかたを含め、工事資金提供者である宝くじ協会は、協会のイメージダウンにならないよう監視すべきだと訴え、坂戸次長は「そんな事とは知らなかった。申し入れ書については、十分上司と相談し、検討します」と前向きな検討の言辞を勝ち取った。また東京都から正式な工事変更届けが出されたら、連絡してもらい、それを審議する理事会の前に、再度、俺たちと今回のような話し合いを設定することも約束してくれた。

仲間たち！昨日に引き続いて今日も大勝利だ。宝くじ協会は、実に紳士的で物分かりがいい。それと違って東京都は、俺たちに工事計画を伝えないどころか、資金提供者すらだまらかして工事を強行的に着工しようとする等、実に卑怯だ。

昨日は新宿区は東京都と協力しないと、両手を揚げさせ、今日の宝くじ協会も俺たちと話し合い検討をして行きたいと前向きな回答してくれた。新宿区からそっぽを向かれ、資金提供者からも疑いの目をかけられ、東京都はまる裸だ！

仲間たち！東京都の協力者にどんどん攻め入り、都庁職員にもどんどんピラをまき、そして、俺たちの声と現実をつたえ、東京都を更に孤立化させて行こう。明日の行動も朝10時インフォメ

前だ。仲間の力で工事計画の白紙撤回を勝ち取るう！ 集中行動の貫徹から10・1大集会、10・2都庁デモを大成功させ、東京都の息の根をぶつとめよう！

集中行動2日目の午後からは、前日に続いて都庁1Fロビーでの座り込みだ。40名近い仲間がきのう同様、総務課の妨害を突破して2時間ちかい座り込みをやり切ったぞ。今日もゴミ処分場問題でたたかっている日の出町の住民団体から応援を受け、都庁を訪れた都民からも声援を受け、元氣一杯の座り込みだ。日の出町の住民団体は知事室秘書課との話し合いをしようとしたら、職員から暴行を受けたと言う。東京都に歯向かう者には奴等は容赦しないという事だ。3・15の弾圧から青島知事変わったとしても、その体質は何等変わりが無い証拠だ。俺らは様々な問題でたたかっている団体とも結び付き、こういうとんでもない東京都の姿勢を変えて行こう！

そして、今日は、東京都議会へ陳情書も提出した。「野宿労働者の対策推進に関する陳情」七第六十二号で正式に受理された。陳情の審議は29日以降ではあるが、東京都に当たり前の対策をやらせていくためには、この陳情書の行方はしっかりと見守ってやる。

仲間たち！俺らはあるとあらゆる手段を使いながら、仲間の力で東京都を変えてやる。連日の集中行動への参加を！

ストップ！ 動く歩道 第一次集中行動を仲間の方で貫徹したぞ！  
 1週間の連続行動と10人のデモで10月撤去策動は完全に粉砕した！  
 孤立を深める東京都に追い討ちをかけよう！ 工事は白紙撤回だ！

仲間たち！ ご苦労さま。

俺たちは多くの仲間の方で「動く歩道」建設やめろ、撤去反対運動のその初戦を勝利的に貫徹することが出来ました。これは、無数の仲間の協力なしには出来なかった。多くの仲間が表で陰で力を発揮してくれたおかげであると俺たちは考えています。

行動に参加してくれた仲間、行動には参加出来なかったけど俺たちのたたかいを無言で支援してくれた仲間、どうもありがとう。

俺たちは撤去反対運動のその初戦を勝利したと、ここに高らかに宣言します。

東京都の連中は、今年の7月頃から「動く歩道」建設に向けて着々と準備を進めて来た。10月撤去が奴等の狙いだった。しかし、情報が事前に漏れ、8月以降の俺らの撤去反対運動は奴等を混乱におとし入れた。奴等は今、工事の入札すら出来ない、宝くじ協会に工事の変更届けすら出していない。新宿区にすらソッポを向かれています。俺らは、10月撤去策動をつぶすだけじゃない、まさに奴等を四面楚歌の状態に攻め込んでいる。奴等は強制撤去すら世論の盛り上がりと注目の中で矛先をおさめざるを得なくなっているんだ。

東京都の唯一の公式コメント「工事の計画はまだ決まっていない。膠着状態だ」に表れているように奴等はそう簡単には身動き出来ない。工事を撤回するか、工事をするとしても俺らの要求



をのんで「平和的」に解決するかしかなかった。

俺らのたたかいはそこまで奴等を追いつめた。これを大成果と言わずに何と云うのか？

仲間たち！ 勝利まではあと一歩だ。傾きかけた都庁を更にもう一押しどついてやれば奴等は音を立てて崩れ始める。鉄は熱いうちに打て！ 仲間たち！ 第二の集中行動を準備しよう。青島知事に工事の白紙撤回を決断させるぞ！ 撤去反対の第二ラウンドへ！

新宿連絡会

**山谷・反失突のたたかいに連帯しよう！  
金曜日、神山争議に合流するぞ！**

95・10・4

この2年あまり俺たち新宿の仲間と共にたたかって来た山谷の反失業闘争実行委員会（準）の仲間が、今度の金曜日、大きな労働争議を行なう。新宿の仲間にも是非、応援に来てくれと要請があった。

3年前、大宮駅手配で神山総業の飯場に入ったKさんは、現場に向かう車で4人死亡という大きな事故にあり、たった一人生き残った。意識不明のまま半年入院し、退院後は飯場から通院していたKさんは、2年前、神山の社長に「出ていけ」と突然叩き出され、以降Kさんは一文なしのまま上野で野宿生活を余儀なくされて来た。

神山総業は、労災が適用されるべき通勤の事故に対し、休業補償手続きをサボリ、しかも、自動車保険の事故補償金すらも本人に手渡さずに会社が着服し、更に治療中に飯場から追い出すと

いう常識外れの飯場である。労働者の足元を見、こき使い、放り出すという典型的なタコ飯場である。反失実の仲間、すでに神山総業への押しかけ争議を行ない、神山の社長を土下座させ本人に謝罪させた。しかし、問題は形だけの謝罪ではすまされない。元請、中請の責任も追及していかなければこういう体質は一向に改まらない。

新宿の仲間にとっても身近な問題だと思う。労働者を使い捨てる業者への反撃を反失実の仲間と共にやり抜こう！ 金曜日朝9時集合。

## STOP! 動く歩道第2次キャンペーンが開始される！ 東京都にトドメの一撃を！

きのうは新宿福祉による「街頭相談」が行なわれた。昼間の実施だったので相談件数も77名と少なかったが、レントゲン検診は54名が受け、医療相談の中では3名が入院した。(レントゲン検診をした仲間は25日から区役所1階カップそば受付場所の結果がはり出されますので、必ず確認をして下さい)

新宿区は東京都の圧力をキツパリと拒否した上で、俺たちと話し合いを重ねた結果、悪評の高い「街頭相談」を俺たちのタメになるよう少しずつ変えて来ている。一方、東京都はどうか？ 「動く歩道」計画については、俺たちには一言も話しもせず、裏で着々と準備を進め、そして、あれだけ批判を浴びている違法な「路上廃材撤去作業」を工事着工と同時に強行しようとしている。この対応の違いは雲泥の差だ。

新宿区との最大の違いは俺らの意見すら聞こうともせず、一方的に施策を押しつける、その態度である。2・17にせよ「路上廃材撤去作業」にせよ「越冬対策」にせよ、俺らとまともに話し合って決めた施策は何一つない。いつも俺らはかやの外だ。今回の「動く歩道」問題でも都・建設局は地元商店街とは話し合いをしておきながら、俺らとの話し合いは一切しない。俺らの存在が違法行為だとか能書きをたれるのなら、4号街路に店の看板を堂々と出している商店は一体何なのだ？ 商店街と話し合いをしておいて、俺らと話し合いをしないという理由はどこにもない。しかも東京都は俺らを排除する根拠に「商店街からの苦情」という理屈を常に持ち出す。商店街から「苦情」があるように、そこに住まざるを得ない我々にも「苦情」はあるし、「事情」もある。その立場の違う意見を調整するのが行政の仕事であって、一方的な意見を代弁するのだったら地方自治体などいらないではないか。

東京都が俺らを虫けらのように扱って来たというのは、まさにこういう事である。不況の中、失業し、家を失った労働者が、最底辺の生活に絶望するのではなく、隣人どうし助けあいながら厳しくもたくましく生きているのに、そういう人々を住所がないというだけの理由で弁解の余地もなく社会から一方的に排除していく。都市の体裁だけを整えようとするのが、東京都の「ホームレス対策」の本質であり、思想である。そこには、俺ら野宿を強いられている者が、何故、野宿生活に至ったのか、どのような思いで野宿生活を余儀なくされているのかという観点、まさに人間としての尊厳を認める所か、それを否定していく発想がある。企画審議室調査部が俺たちを実態調査した内容は数だけ。何人、どこで野宿しているかだけの調査しかしていないことに、こ

のことは顕著に表れている。

東京都は何も自覚をしていない。「ホームレス問題」がいかなる問題なのか、そして、「誤ったホームレス対策」を行なうことで、どれだけ仲間の人生を目茶苦茶にするか、どれだけ仲間の命を奪っていく結果になるか、そして、この問題の真の「解決」の歩みをどれだけ遅らせることになるのか。

俺らはこのような、旧帝国軍人なみの、ユダヤ人狩りをしたヒトラーなみの発想などにはどうもいついて行けない。それほど都市の体裁だけを整えたいのなら、新宿に戒厳令でも敷くよう自衛隊に要請すればいい。どうせなら行き着く所まで行け！ 東京都の官僚どもよ！

東京都は切羽つまった下らない論議でも内部で勝手に行なっているがいい。俺らはその間に、俺らの流儀でたたかいを発展させてやる。俺らは「話し合い解決」のテーブルを整えいつでも交渉に応じられる体制で臨んでいる。今、決断しなければならぬのは、東京都よお前らの方だ。

仲間たち！ 年度内工事完成計画の白紙撤回まで俺らは全力で突き抜ける！ STOP！ 動く歩道！ 来週から第二次集中行動を開始するぞ。新宿区からも見捨てられ、建設省からも見放された東京都を更にまる裸にして行こう。12億円の資金提供者、日本宝くじ協会を許すな！ 連日行動から10・28宝くじ協会に進撃する千代田区デモへ！

**青島の暴言を許さない緊急渋谷デモ**  
**青島は俺らにあやまれ!!**  
**昨日新宿・山谷、渋谷の仲間100人の結集で大成功!**

95・10・29

「青島の暴言を許さない!」——昨日の青島発言弾劾渋谷デモは、緊急の呼びかけにもかかわらず、100人の仲間が結集し大成功した。

渋谷・宮下公園での集会では、上野公園での追い出し反対運動を作ってきた山谷・反失業闘争実行委(準)の仲間や、渋谷の仲間の追い出しに抗議してきた「いのけん」の仲間からも発言を受け、都内各地で「追い出し反対」の運動が広がっていることを訴えた。

デモは渋谷の繁華街を約一時間にわたって歩き、土曜日の混雑する街頭に俺たちの声が響き渡った。「青島は俺たちにあやまれ!」

「好きでホームレスをやっている。だから追い出しても構わない」——青島の暴言は俺たちの怒りに火を注ぐ結果を招いた。「動く歩道」建設問題の話し合い解決を頭から否定し、俺たちに悪罵を投げつけ、この街から追い出そうとする東京都の思惑がはつきりと示される暴挙・暴言だ! 絶対に許さない!

この一週間、俺たちは第二次キャンペーン運動として、東京都に「動く歩道」計画を白紙撤回するよう訴え続けてきた。だが青島発言が東京都の真意であり本音であるのなら、工事の着工は強権的に進められてくるだろう。これは俺たちが最も望まないやり方だ。まさしく94年2月17日の一斉撤去の再現であり、一方的な強制撤去の方法だ。

青島暴言 「仕事を紹介しよう、住む処を紹介しようといっても(拒否する)ホームレスの方々は、独得の哲学をお持ちで…」と、自らの無策の結果を野宿者の「哲学」に仕立てあげ、排除を煽った暴言。

「ホームレスは独特だ」「ホームレスに責任を取らせない」

# 偏見を俺らも追いついてる 青島暴言を弾劾する！



明日の青島  
水沢 兼行

仲間たち！

青島が「ついに」東京都の本音をもらした！  
20日の定例記者会見で「動く歩道」計画をどうするかと聞かれた青島は、次のように話した。

「（ホームレスは）独特の人生観と哲学をお持ちだ。職を紹介しよう、飯の住まいを提供しよう、体が悪いなら手当てもしよう、と言っても、ほっとおいてくれ、と言う」

「あの人たちは何も悪いことはしてない、というご賞賛なんですが、道路を占拠し、通行する方がいやな思いをさせていることには、それなりの責任を感じて頂かねばならない」

その上で「ホームレスの方々にご理解いただく手立てを考え」ながら「通勤に便利」なので「動く歩道」建設は計画通り進めると語った。

青島よ、冗談も休み休み言え！！！！

「動いてくれよ」とか「動いてくれよ」とか、お説教を食らう。道路を占拠して通行する方はいやな思いをさせていることには、それなりの責任を感じて頂かねばならない。青島は、その上で「ホームレスの方々にご理解いただく手立てを考え」ながら「通勤に便利」なので「動く歩道」建設は計画通り進めると語った。

青島許す所  
緊急行動へ！

スケジュール  
STOP! =  
動く歩道

10月23日(木)  
朝8:00  
イン7+X前  
病室の仲間は  
8:30イン7+X

青島は一度でも俺たち新宿野宿者と言葉を交わした事があるのか？東京都が一度でもいから新宿の俺たちに職を紹介した事があるか？東京都が一度でも飯の住まいを提供したことがあるか？「ほっとおいてくれ」とはいつ誰が言ったんだ？道路を占拠せざるを得ない状況に追い込んだのはどこのどいつだ？「いやな思い」とはどんな「思い」だ？物ごとを履き違えてもらっては困る。真に責任を感じてもらわなければならないのは、東京都の方だ。

青島暴言は要約すればこういう事だ。  
「東京都はホームレスに手厚く保護をして来た。仕事の紹介もやった。だが、それを拒否したのはホームレスの方だ。奴等は好きで道路を占拠し通行人に迷惑をかけている。本人が悪いのだから本人が責任を取れ。手立てを考えてやるからさっさと新宿から出ていけ！」

計らずも知事の口から東京都の本音が出た。

## 新宿連絡会

新宿野宿労働者の生活就労保障を求める連絡会 議  
95年10月22日(日)

東京都台東区日本堤1-25-11 山谷労働者福祉会館気付け ☎03(3876)7073

10月24日(火)  
朝8:00イン7+X  
10月25日(水)  
朝8:00イン7+X  
76:00火出

俺らは今まで筋を通して東京都へ俺らの声を届けてきた。その上で「話し合い解決」を拒否せずに、堂々と話し合いで解決しよう、東京都に提案してきた。それなのに、それなのに！青島は俺らが必死になつて集めたトータル九三五人分の署名簿の重みも考えず、俺らが出した申し入れ書すらまともに読まず、俺らが資料として提出したパンフやビデオも目を通さず、東京都が今まで俺らに何をやったのかも聞はずに、つめえの頭の中だけで考えた予断と偏見をもつた考え方を記者会見の場で堂々と言い放つた。

公約破りの次は弱い者いじめか？何が庶民の味方だ！これが青島の本音だ！これが東京都の方針だ！良い事言いにだまされるな！ついにバケの皮がはがれた！

「ホームレス」は「独特」である。この言い回しの中に青島の差別性が十分に表れている。知事ともあるものが、自分で聞かずに、当事者と話し合せずに、野宿を強いられている人々を勝手に規定していいのか！こういう予断と偏見が大板道頓堀の若者による殺人事件のような事を引き起こすんだ。子供は大人

のまねをする。行政の長がこういう発言を平気でした事に俺らは不快感と強い憤りを感じる。俺らを「ホームレス」という一言でくくるな！俺らの性格、俺らの生き方を勝手にひとくくりにして決め込むな！

「動く歩道」計画は今月末、最終的な「対策会議」をもって決定されると言う。こんな暴言を吐かれ俺らが黙っているとでも思うのか？いかなる「手当て」が決まろうとも、こういう差別的な発想で行なわれる「手当て」など、俺らは絶対に容認する事は出来ない。青島よ、部下の努力も何もかも、全てお前の一言がブチ壊したんだ。どうしても「納得」して欲しいのなら、どうしても「平和的に解決」したいのなら俺らの前に来て、土下座をしる！青島が暴言を撤回し、俺らに謝罪するまで俺らは絶対に東京都を許さない。

仲間たち！もう黙っていることはない！俺らの怒りを東京都に叩きつけよう。明日からSTOP！動く歩道第二次集行動だ。俺らの力で青島暴言を撤回させよう。宝くじ協会の資金援助を中止させよう。「動く歩道」計画をぶつつぶせよう！決定されてからではもう

遅い。仲間たち！今こそ立ち上がれ！東京都に対する緊急行動を俺たちは準備する。俺らの団結した力で、俺らが人間として当たり前に生きて行ける権利を勝ち取るぞ！

### STOP！動く歩道！二次キャンペーン

明日から金曜まで毎朝8時にインフォメーションに集合してから朝、昼、晩と縦横無尽にたたかい抜く。行動予定は口コミで！夜は前回と同様、インフォメーション前で集団野宿体制だ。毛布も用意しています。寝る場所のない仲間は一緒に寝よう。

そして今週の炊き出しは、水曜、金曜の夜です（午後6時インフォメーション）。金曜の夜はビデオ上映など炊き出し集会をもつ。新宿パトロールは、日、水、金、日の夜9時からまわります。相談事のある仲間は是非、パトロール隊に！

そして、今週の土曜日10月28日、千代田区にある日本宝くじ協会へめがけてデモを行なうぞ！午前10時インフォメーション前集合だ。仲間の力を再度結集させ、第二次キャンペーンを成功させよう！

俺たちは暴力的な対決を望むものではない。だからこそ「俺たちの声を聞け」と、話し合い解決の道を追求し続けてきた。きつちりと筋を通し、知事の秘書に会談を求め、抗議声明を提出してきた。だが青島の暴言を擁護し、発言を撤回する姿勢も見せず、「悪いのはお前たちだ！」と責任をなすりつける東京都の態度は、問題をこじらせ解決の糸口すら見失ってしまう。しかも新宿警察と結託し、俺らをパクらせようとするとは何たることだ。

非常識、デタラメにもほどがある。

俺たちは東京都との対立を望むものではない。だが今後も東京都が話し合いを拒否し、俺たちの生活の場である西口地下に混乱を持ち込むのであれば、その一切の責任は東京都にある。つけは必ず払ってもらおう。

新宿のダンボールハウスは、俺たちの命を守り、仲間と共に生きてきた最大の砦だ。誰何人と言えども、手をかける事は許さない。

情報によれば、東京都は10月の末に最後の検討の場を持ち、「歩く歩道」建設に関する計画を公表すると言う。早ければ今週にも着工の時期と、東京都の言う「何等かの手だて」が知らされる事になるだろう。

俺らの声も聞かず、一方的に押しつけられる対策にろくなものはない。「何等かの手だて」とは、世間の目をごまかすためのアリバイにしか過ぎない。「ホームレス保護作戦」と称して打ち下ろされた施策が、実際は追い出しでしかなかった2年前の一斉撤去を忘れるな！ もう絶対にだまされぬぞ！



社会の底辺で虐げられてきた仲間たち！

路上で野宿を強いられてきた仲間たち！

これ以上人間としての尊厳を踏みにじられ、労働者としての誇りを侮辱されてたまるか！

路上に散った多くの仲間たちは、今じゃ抗議の声も上げられない。好きで野宿をし、好きで死んでいった仲間など一人もない。

誰が見ても正当性は俺らの側にある。

それでもなお、話し合いを拒否し強権発動を打ち下ろすのであれば、俺らにも覚悟があるというものだ。ただではダンボール村を明け渡しはしない。そしてただでは排除されない。それなりの準備は整っている。

時折しも季節は冬に向けて移りつつある。命を守り生き抜く―俺たちが培ってきた仲間とのつながりを強め、一人の犠牲者も出さな！

いよいよ11月「強制撤去阻止決戦」に突入するぞ！ 東京都が何をしでかそうと、俺たちは新宿で生き抜く！ 全ての仲間が野宿生活から脱出し、新宿から巣立っていくことの出来る日まで、新宿連絡会は仲間と共に歩む。

▼強制撤去での「動く歩道」建設阻止！

▼東京都は「話し合い解決」への努力をしろ！

この一週間、インフォメーションの周りでも2人の仲間が倒れ、緊急入院した。寒くなってきた

たためか、具合が悪いと訴える仲間も増えてきた。飯もろくに食えずに野宿が続けば、誰だつてどこかおかしくなる。

10月17日の街頭相談での結核検診では、54人の受診者のうち、7人の仲間が「精密検査の必要あり」との結果が出た。どんなささいな体調の変化でも用心に越したことはない。

月曜福祉行動でドンドン生活保護を申請しよう。油断や躊躇は禁物だ！

福祉行動は俺たちの命を守っていく基本中の基本の行動だ。体が悪い、だが医者にかかる金がない。それならば福祉にかかるしか方法はない。福祉が無下に断れば、それは死ねと言っているのと同じことになる。

俺らは、決戦の時を迎えても、パトロール―福祉行動―炊き出しを継続しながら、生きていく道を仲間と共に見つけ出していきたい。

病気・高齢の仲間は月曜新宿福祉行動へ！

### 争闘報告

暴行・監禁・無賃金強制労働！

日本力で労働者を脅す刑務所飯場正田建設争闘に勝利

85・11・5

新宿連絡会は昨日、山谷争闘団ならびに山谷と新宿をつらぬく反失業闘争実行委（準）と共に、埼玉県寄居にある暴力刑務所飯場Ⅱ正田建設への押しかけ争闘を闘い抜いた。

上野公園手配で正田建設に送り込まれ被害にあった労働者の話は、俺らにも到底信じられない事態だった。

「契約はヌキの7千円。ところが……飯場に入ったら全員坊主に刈られ、24時間トンコ（逃亡）防止の見張りがつき、現場にも用心棒が仕事もせずに監視していてトンコができない。トンコが発覚すると5人以上で袋叩きにされる。前借りは一日300円、まともに賃金をもらった者はいない。さらにゴルフクラブや日本刀を隠し持ち、振り回して脅し、殴る蹴るの暴力沙汰は日常茶飯事。用心棒の目を盗んで脱出する以外、正田の飯場を抜け出す方法はない。現場打ち上げの焼き肉パーティーの時、トンコ防止のため全員に赤い帽子をかぶらせ、一列に並んで歩かされた。これで逃げ出せますか。ひどいところです」

凶器を持った暴行、監禁、ただ働きの強制労働——まさに刑務所飯場の名に値する暴力飯場こそが、正田建設なのだ。

争議の呼びかけに応え結集した仲間は実に百人。釜ヶ崎をはじめ全国からも仲間が参加しインフォメ前で集会、全体で意思を確認。

争議目標を①用心棒の暴力を解体し、社長との団体交渉を勝ち取ること、②飯場の仲間と結びつき、脱出したい仲間は賃金を精算し共に帰ってくることに、の2点で確認。大阪・釜ヶ崎から急遽かけつけた大型バス「勝利号」に乗り込み、いよいよ正田へと向かった。

午後4時半、飯場到着。飯場突入時、全体に緊張がみなぎる。サオ部隊が赤旗をなびかせ、飯場入り口に陣取る。代表が社長宅に交渉を申し入れる。数名の用心棒は何も手出しができない。社長は交渉に応じる事を表明。

やった！ 飯場中庭での団体交渉が始まった。

団交の中で明らかになったのは、2年前の飯場開設時から現在まで、労働者に賃金を払った事が一度も無いという事実だ。社長自らがこの事実を認め、謝罪の意思を表明した。

さらに労働者を殴り脅していた凶器の問題だ。ゴルフクラブの所在を吐かせ7本を発見、宿舍2階に隠していた日本刀は、仲間が階段を駆け上り発見、社長の前に突き付けた。

もう何も反論は出来ない。全面的な謝罪と暴力飯場の体質を改善する事を確約。社長の合意の下、凶器類は全て没収を勝ち取った。

仕事を終え続々と帰ってきた飯場の仲間とも合流し、合計11名の仲間が正田建設をやめたいと名乗りを上げ、賃金精算の上、新宿まで戻ってきた。午後4時半から延々5時間、刑務所飯場Ⅱ正田建設を制圧し、20名以上の用心棒は俺たちの回りを取り囲むが、首はうなだれたまま。武装は完全に解除された。

正田建設争議は獲得目標を全うし、第一弾を闘い抜いた。仲間たち！ 明日夜の炊き出し時に、報告会を持つので乞うご期待だ！

新宿連絡会

「動く歩道建設強行阻止！ タコ飯場解体！  
仲間の命を仲間の力で守りぬこう！！ いざ新宿決戦越冬へ」

85.12.9

仲間たち！

越冬闘争突入前に俺たちはまたもや、大きな勝利をもぎとった。「動く歩道」建設に対する俺た

ちの連続したたたかいかいによって東京都は今、大混乱におちいつている。そして、ついに奴等は12月着工計画を断念した。9月から本格的に開始した「STOP! 動く歩道」の集中行動の爆発は東京都に工事の遅れを強制して来た。俺たち新宿の仲間、とりわけ4号街路に住む仲間を先頭とする果敢なたたかいは10月着工計画をぶちこわし、そして年内着工までをも木っ端微塵に打ち砕いたんだ。

仲間たち！ 工事の白紙撤回まであともう一息だ。来年3月末までの工事完成というタイムリミットに向け、東京都は年明け早々からあらゆる手を使いながら俺たちを一掃しようと企んでくるだろう。しかし、俺たちには工事着工を遅らせて来た仲間の強い団結がある。

この団結を前段越冬闘争、越年闘争の中で更に研ぎ澄ませ、年明け着工をも仲間の力でプチ壊してやる。強固な越冬陣形の中に「動く歩道」を引きずりこもう！ この冬、仲間の力で俺たちのダンボール村を守りぬくぞ！

そして、今日からいよいよ、新宿越冬闘争に突入する。この冬、一人の死者もこの新宿から出さな！ 仲間の命を仲間の力で守り抜こう！ 新宿連絡会・越冬実に関わるすべての力を結集させ、俺たちにとって一番厳しいこの季節を野宿の仲間の力で、支援の仲間の力で乗り切つて行こう！

第2回新宿越冬闘争は山谷の越冬闘争とも強く結びつきながら、まさに決戦越冬としてたたかい抜かれる。仲間の命と居住地を守りぬくだけじゃなく、東京都の排除策動を打ち砕き、正田建設のようなタコ飯場を解体して行く攻めのたたかいをこの決戦越冬の中でやり抜くぞ！ 仲間た

ち！ 新宿連絡会・越冬実へ結集しよう！

東京都はつねに、工事完成のタイムリミットである11月、12月の工事着工を断念した。日本宝くじ協会の資金援助（10億円）の条件は来年3月一杯で工事が完了している事、そして工事の變更届けが正式に決定されるのが来年1月の宝くじ協合理事会でだ。しかし、このままでは資金援助どころか、工事の具体的な着工のメドすら立たない。住友重機に「歩道」本体の入札（5億4千万）を行なっただけで、その他の工事の入札すら現段階では行なえていない。一方、地元の行政を無視しながら、品川区八潮（なぎさ寮の近く）にあるベトナム難民施設に4号街路の仲間を工事と引き換えに収容しようという東京都の計画が暴露された。これは、まさに、なぎさ寮の新宿版だ。「4号街路を明け渡す条件に数か月だけ収容所に入れてやる、後は死のうが生きようが勝手だ」と、これが、地元はおろか、当事者である我々にも一言の相談もなく進められている収容計画だ。

この計画に見られるように、東京都はタイムリミットに迫られながら、当事者無視の姿勢を徹底させ、年明けの工事強行へと踏み出すであろう。「とにかくホームレスを強制収容して工事を強行してしまえ」これが、東京都の本音である。後は、宝くじ協会を騙して金をふんどくり、突貫工事で「動く歩道」を完成させる。追い込まれば追い込まれるだけ東京都は強行突破の手段をなりふりかまわず取ってくるだろう。青島のタコに幻想をもつたら俺たちの負けだ。奴は自己保身のためならなんでもやる男だ。

俺らは年明けの工事強行を射程に入れ、工事阻止の仲間の陣形を構築する。すでに4号街路入り口には監視小屋が建った。4号街路をまもり抜く仲間の拠点だ。監視小屋を拠点に俺らは4号街路の仲間と結びつき、工事阻止の陣形を強固に作り出す。

そして、日本宝くじ協会への短期集中署名活動を展開し、1月理事会での資金援助決定をさせない圧力行動に取り組む。

また、ボロが出た東京都の計画には徹底したダメ押しが必要だ。住友重機、八潮のベトナム難民施設への大衆的な展開で抗議の行動を取り組むぞ。

最後に都庁本丸だ。庁舎前情宣、ロビー座り込み、都議会傍聴、これまで俺たちがたたかってきたすべての戦術を駆使して工事断念をせまる取り組みを都庁内外を貫いて行なおう！

俺たちの居住地を奪う「動く歩道」は絶対阻止だ！ これまでのすべてのたたかいを12月前段越冬闘争の中に組み入れ、凝縮させ、年明けの決戦を仲間の力でたたかおう！

大宮や上野であげた労働者に賃金を一切払わず、飯場からトンコしようにもトンコ番が24時間みはり、日曜も外出禁止。部屋の中にはポーシンが日本刀やゴルフクラブをふりかざしてデカイ面。トンコがみつければ社長やポーシンにフクロ叩きにされる。

刑務所飯場、埼玉県寄居町にある正田建設解体へのたたかいが続けられている。11月14日、俺たちは上野の被害労働者を先頭に、日雇全協の全国の仲間と共に正田建設の飯場に押しかけ、社長正田実を仲間の前で謝罪させ、飯場の中の11人の仲間の賃金を精算させて来た。

更に12月1日、手配現場の上野公園で正田建設の手配師、佐々木こと金岡を大衆的に追及。謝罪文をもぎとり、手配師稼業を今後一切しない事、金と酒で被害労働者を取り囲んで手配の手元をさせていたグループの解散を実現させた。

そして、この2弾のたたかいは通し、非道の暴力で牛耳られた来た上野や新宿、山谷で被害労働者が勇気をふるいたたせ、続々と名乗りを上げている。

野宿を余儀なくされた労働者を飯場に囲い込み、暴力支配で肥え太って来た文字通りのタコ飯場、正田建設を許しておいては、野宿の仲間の未来はない！

きのうから山谷センター前での連日の共同炊事を開始し、被害者を軸に正田を撃つ陣形を構築せんとする山谷の仲間のたたかいに呼応して、新宿の仲間も集中体制でたたかうぞ！ あさつての熊谷労基署への押しかけと、連続した現場闘争を大衆行動としてやり抜き、再度全国の仲間と共に正田建設の飯場に乗り込もう！ 正田建設争議第3弾は前段越冬闘争の導火線だ。被害労働者は集り共にたたかおう！

「仲間の命を仲間の力で守り抜く」これが俺たち新宿の仲間が培ってきたスローガンだ。そして、越冬闘争こそ、俺たちが作ってきた仲間自身の取り組みが試される時だ。仲間の命を守る事は、俺たちのダンボール村、俺たちのコミュニティを守りぬく事で初めて実現される。冬という季節、様々な仲間が入り組んだこの新宿でどういう団結が必要なのか？ 俺たちは仲間と共に考え、そして実践して行きたい。



昨年5月の仲間同士の「殺人事件」以降、俺たちは、厳しいながらも生き抜いていかねばならない仲間のつながり方、仲間の作り方を考えて来た。しかし、まだまだ内部での足の引っ張り合いや、トラブルや矛盾は多い。この事を俺たちは仲間全体の問題として引き受けながら、決戦越冬の中で「解決」の芽をたぐり寄せて行きたい。

そのためにも、是非、多くの仲間の知恵を貸してほしい。この新宿で生き抜く手段を獲得して行くことこそ、越冬闘争の課題でもある。新宿連絡会・越冬実の会議（寄り合い）を毎週水曜日、夜7時からインフォメ前で行なう。この冬を乗り越えて行くためにも多くの仲間の越冬実への結果を呼びかけます。越冬に入り、まずなによりも必要なのは、仲間の命を守っていく実践活動だ。パトロールを強化し、福祉行動を強化し、年末の「さくら寮」入寮を軸に病気で厳しい仲間、高齢の仲間の問題を全体の問題として考えよう。医療や福祉に関する知識も専門家の知識ではなく、仲間の生きる知識として蓄えよう。医療講習会や医療相談も予定しています。そして、なによりも仲間と平等につながって行くこと。これが仲間の越冬陣形だ。冬を恐れず、仲間の陣形で冬を乗り越えよう！

新宿連絡会（越冬実）

**プタ小屋施設に収容する代わりに4号街路をあげ渡せだど!!  
俺らは4号街路に居座る!!  
東京都がその気なら徹底抗戦・実力阻止だ**

仲間たち！

8日、東京都がついに「動く歩道」建設決定をした。港区芝浦の倉庫街の中にプレハブ收容所を作り、それと引き換えに4号街路に住む2000人の仲間を追い出すという計画だ。「動く歩道」建設と周辺の「環境整備工事」は来年1月に着工し、6月の完成予定。しかも工事費用13億（宝くじ協会からの寄付金を諦め）を独自財政で支出すると言う。

「寝耳に水」とは、この事だ。俺たちには一言も相談もなく、俺たちの現状すらも知らずに勝手に「対策」を決め、ブタ小屋施設に2カ月入れてやるから新宿から出て行けとは一体何事だ！

俺たちは9月以来、一貫して東京都に「話し合い解決」をするよう求めて来た。突然出て行けと言われても困る、工事をどうしてもするという前提なら、立ち退きが予定される一人一人の意見を聞き、「自立支援」対策を個別ニーズに即して行なうのが当然であると主張して来た。それなのにだ！ 東京都はまたしても俺たちをコケにし、かやの外に置き、勝手に「対策」を進め、来月半ばまでに出て行けと強要して来た。しかも青島は記者会見で「これが精一杯の対策だ」と又ケヌケと言いつつ放った。もはやこれ以上の「対策」はしない。これで我慢しろと言う訳だ。「2カ月は面倒見てやるが、その先は生きるも死ぬもあんたらの勝手だ。ただし新宿には戻ってくるな」青島の言っていることはこういう事だ。

冗談じゃない！ ここまでコケにされて東京都のウソとペテンを信用する人間はどこにもいない。東京都のでまかせに騙されるな！ 奴等とは新宿駅西口から俺らを排除したいだけだ。奴等は俺らをゴミ同然と見なし、「動く歩道」工事を名目に新宿の街から追い払いたいだけだ。施設を作ること世間の目をごまかそうとしているだけだ！ 俺らをコケにするのもほどほどにしろ！

そもそも今回発表になった「対策」とは、従来行なって来た「越冬対策」以下の代物だ。工事着工と同時に、200人の仲間を一律に収容所（プレハブ施設）にプチ込み、2カ月世話をしてやるから仕事を早く自分で見つけろと追い回す。これが奴等の言う「自立支援策」だ。金ももらえず、3度の飯を食わせるだけの家畜小屋同然の生活を強要され、規則がらめの管理で個性すら奪われ、アルバイト学生に怒鳴り散らされ、仕事が決まらなければ全て「お前が悪い」と放り出される。正田のタコ飯場とどこが違うんだ！ ケタオチ施設「なぎさ寮」で2人の仲間が殺されたように、こんな収容所に入れられたら命がいくつあっても足りない。

この収容所は、決して俺らのタメにと考えられた物ではない。職業安定所に通わせるだけの2カ月という短い期間でどれだけだけの仲間が仕事につけようか？ 生活保護法の適用でちゃんとした更生施設に入った仲間でも1年以上仕事を探している仲間はザラにいる。それほど高齢者の求職活動は困難なのに2カ月で仕事を探せとは冗談も休み休み言え！ 俺らが置かれている現状すら認識せずに世間の目をごまかすだけの綺麗事を並べた「対策」ほどロクなものはない。

見てくれだけの施しなど金輪際御免だ！ 俺らは東京都が発表した「対策」を断固拒否する。こんなロクでもない、利用価値すらない「対策」で仲間の命を引き換えにすることなど到底出来ない。東京都が俺らの頭ごしに工事を進める気なら、工事は実力阻止だ！ 俺たちは強制撤去に徹底抗戦する。4号街路の仲間たち！ 俺たちがいる限り工事は一步も先に進まない。工事を阻止する力は俺たち一人一人にある。東京都には騙されるな！ 俺たちは人に騙され、世間に騙され、行政に騙され続けてきた。もう誰からも騙されるのは御免だ。東京都がその気なら俺らは仲

間のみだけを信じ徹底して工事をぶっとめる。仲間たち！ あらゆる切り崩しに抗し、4号街路に居座ろう。新宿連絡会は最後の最後までたたかい抜く。明日からインフォメ前拠点と4号街路監視小屋を軸としながら都庁に対する弾劾行動を連続してやり抜く。仲間たち！ いよいよ佳境に入った撤去反対運動に全力をかけよう！ 1月半ばが最大の決戦局面だ。仲間の力を集め、新宿越冬闘争の陣地の中で「動く歩道」を迎え撃とう！ 明日11時からの緊急集会と都庁行動へ参加しよう！

被害労働者を先頭にタコ飯場Ⅱ正田建設に対するたたかいが継続されている。今日も第4弾の取り組みとして全国の仲間と共に埼玉県寄居町にある正田建設飯場に乗り込み、2回目の飯場争議をやり抜いた。監禁状態にある飯場の中の仲間と結びつき、仲間の実力で正田建設を制圧しながら争議を貫徹したぞ。詳しい報告は明日のインフォメ前緊急集会で行なう予定だ。是非、多くの仲間の結集を！ 連続した正田建設争議を貫徹した力を報告、集約し、「動く歩道」建設阻止、1月決戦に向けた決意を固める集会だ。昼11時新宿駅西口地下インフォメーションセンター前広場に集まろう。二大闘争の前進を勝ち取り、新宿越年・越冬闘争を撤去も野垂れ死にも許さない仲間のたたかいとして貫徹しよう！

**青島の新宿タンボールハウス強制撤去を許すな！  
新宿現闘団への志願を！**

85・12・22

釜の仲間達、今週前半にも、東京都知事・青島による、新宿地下のタンボールハウス強制撤去攻撃が煮つまる。新宿闘争の闘争支援の為、反失連は、新宿闘争現闘団を、今晚7時、「勝利号」をセンターから出発させ、新宿現地へ派遣するぞ。「勝利号」(バス)の定員座席の関係上、新宿現闘団は、釜ヶ崎からは、40名規模となります。現在、新宿現闘団への志願者を募っています。

第一次派遣は、今週一週間(22日(月)～28日(日))の闘争派遣を計画しています。新宿闘争の前線を支える、後方野営拠点には、既に、先発隊によって、横浜・寿の寄せ場の寿公園に、野営テントを設営し終え、整っています。寿での野営陣地に、全国寄せ場の現闘団が集結し、山谷と結合し、新宿前線を支えきり、共に、全国闘争の底力で、新宿闘争を闘い抜く決意だ。92年10月市更相(大阪市更生相談室)暴動を、釜の反失業闘争の头号砲に、この4年来の反失連布陣での反失業の闘いを教訓に、闘う仲間の断固たる新宿現闘団への志願を訴えます。現闘団の編成は、今晚7時、「勝利号」がセンター出発の際、行ないます。今週一週間の派遣期間での現闘団に志願される仲間、は、今晚7時までに、「勝利号」の所に集合して下さい。

仲間達！ バブル崩壊後の大失業情勢下で、東京都庁の玄関先である新宿地下では、現在、600名以上の仲間が、タンボールハウスでの野宿生活を強いられている。釜では反失連を結成することで、断固たる反失業闘争が闘われている様に、新宿では、新宿連絡会が結成され、山谷と結合しつつ、この2年来、首都圏の最大の反失業闘争の闘争拠点を築きつつ、ねばり強い闘いが、

闘い抜かれている。

青島は、ゼネコンやポリ・役人どもにネジを巻かれ、13億円予算の「動く歩道」工事を名目に、機動隊の暴力に物を言わせて、ダンボールハウス強制撤去を強行せんとしている。新宿闘争を防衛せよ！

釜日労。

**25日、撤去発生巨策動を4号街路で撃破！**  
**動く歩道建設実力阻止いよいよ明日**  
**都建設局またしても大敗北！ 越年斗争突入 インフォメ前にあつまれ！**

95・12・27

仲間たち！

東京都・建設局による撤去警告策動をまたしても中止に追い込んだゾ！ 15日の勝利に引き続き、これで連戦連勝だ。

建設局の連中は通路保全担当部長・古川公毅を先頭に、今回は40名近いガードマンを引き連れ4号街路の撤去警告を企てて来たが、4号街路の仲間を軸とする固いスクラムの前にまるつきり身動きが出来ず、30分近いもみあいと、対峙の末、ついに撤去警告策動を断念した。奴等は前回の大失敗をとりつくりつくりか前回を倍する数のガードマンを雇い、強行突破を目論んでいたようだが「俺たちの頭ごなしに決定した動く歩道建設など許さん」という仲間の決意は固い。俺たちに体当たりをして4号街路に入りもうとするガードマン、建設局の連中の動きを俺たちは体を張って阻止し抜いた。「これが東京都のやりかただ！」仲間の叫びに帰宅途中のサラリーマンが

釜日労 日雇全協釜ヶ崎支部・釜ヶ崎日雇労働組合。釜共闘の混迷期、オイルショック期に、行政闘争を担うメンバーから創建され、以降現在に至る。釜の労働者にとっては、現在も釜共。

続々と集まり野次馬の垣根がまたたく間に出来る。建設局の連中は公衆の前でまたもや醜態をさらしたのだ。

それもそうだ。連中はこんなチャチな手しか思い浮かばない。連中はなんでもかんでも力で解決出来ると思つてゐる。拳をあげれば蜘蛛の子を散らすように俺たちが逃げていくと思ひこんでゐる。思い違いもいい加減にしろ！ 青島幸男よ、担当副知事の瀬田悌三郎よ、建設局長、木内孝蔵よ、封建時代の殿様じゃあるまいし都庁の城の中に閉じこもつてばかりしないで、正しいことをやつてゐると思ふならチャチな手段を使わず正々堂々と俺らの前に出て来い！ 強権で解決できない事をお前らの目の前で俺らはトクと示してやる。お前らが強権でやつてくるなら俺らはトコトン実力で阻止してやる。新宿の仲間がダテにたたかつて来た訳じゃない、俺らの団結力はそれが出来る。15日、25日の攻防はその助走でしかない。俺らは1月半ば工事の着手を絶対に許さない。芝浦収容所への強制収容を絶対に拒否する。東京都・青島よ、建設局よ、2度にわたる敗北をキツチリと反省するがいい。ゼネコンと談合し、談合疑惑をもみ消すひまがあつたら「開かれた都政」とやらを本気になつてやれ！ 野宿者を一方的に排除しようなんてナチスみたいなやり方を金輪際やめろ！ お前らの下手な目論みなど今の世に通用しない事を自覚しろ！ 東京都よ、恥を知れ！ 恥を！

新宿連絡会は仲間と共に明日からの越年闘争をやり切り、1月中旬の「動く歩道」決戦を越冬闘争最大限の力量を発揮し、徹底抗戦、実力阻止でたたかう。仲間たち！ 15日、25日と連続して建設局を追い払った力を武器に新宿越年闘争をたたかい抜こう！

都、建設局による撤去最終通告を叩きつぶせ！  
芝浦フタ小屋への強制収容断固拒否！！  
今月中旬「動く歩道」建設を実力阻止するゾ

85・12・27

仲間たち！

第2回新宿越年闘争は仲間自身の力を十分に發揮して勝利し切った。俺たちはこの力をバネに本日から「動く歩道」建設実力阻止の臨戦体制に突入する。

東京都・建設局は早くて来週、遅くともさ来週には4号街路への最終通告―芝浦収容所への収容―ダンボール撤去作業―工事着手を行なおうと画策している。フタ小屋施設芝浦収容所は既に大方は出来上がっている。運河に囲まれた収容所に2カ月閉じ込める事と引き換えに俺たちが2年近く守り続けてきたダンボール村を引き渡せという、まったく道理の通らない「理屈」で強制撤去を行なおうとしているんだ。やつらのやり方は先月15日、25日の撤去警告のやり方を見ても明らかだ。大量のガードマンを雇い、機動隊を配備した上で力づくで俺たちを排除しようとする。「話し合い解決」を求めて来た俺たちの頭ごなしに全てを決定し、その上、行政権力でもって俺たちの住家を奪い、命までも奪おうとしている。有無をいわず新宿から俺たちを追い出そうとしているんだ。

ゼネコンから賄賂をもらい、談合、汚職まみれの建設局の連中の目には社会の底辺で生き抜いて来た俺たちの姿はゴミとしか映っていない。この寒空に強制撤去をやる事がどういう事なのか、



ヒーターのきいた暖かい一戸建ての家に住んでいる殿様気分の役人連中にはなに一つ分かっていない。人の命の大切さも尊さも奴等にとつては「馬の耳に念仏」だ。

東京都の職員どもよ、雇われガードマンどもよ、今度こそ俺たちは容赦はしない。俺たちの小屋に手をつけるような奴がいれば誰であろうとも俺たちは決して許さない。強制撤去をやらうというなら何人でも道づれにしてやる。職務に忠実な青島の番犬どもに最後に教えてやらう。俺たちの生活を「不法占拠」であると「法」を持ち出すのなら、法的な手段を取ればよいだけなのだ。言っておくが、君達がやらうとしている「強制撤去」は何等法的な根拠がある訳ではない。君達がやらうとしているのは「公務」でも何でもないのだ。まさに暴力団の「地上げ屋」だ。不当な暴力による生活破壊だ。人殺しだ。こんな事が東京都がやる事だから、青島がやる事だからと許される訳がない。自分等がやらうとしている事をよく考えとくが良い。

俺たちの怒りは頂点に達している。失業地獄にあえぐ俺たちの現実を放置し、多くの仲間を見殺しにし、多くの仲間を実際に殺して来、更にその上に俺たちが辛うじて生き抜いている居住地までをも奪い俺たちを一掃しようなんて、どこの国のどこの行政がこんな仕打ちをしようか？犠牲と矛盾と皺寄せを全部俺たちに押しつけておきながら何等その責任を取らないとは、何が民主主義だ。何が開かれた都政だ。欺瞞に満ちた東京都のやり口を俺たちは俺たちの生活拠点である路上からそしてダンボールから必ずや打ち砕く。

仲間たち！ 今度という今度は一切の幻想を払いのけ、俺たち新宿で暮らす野宿労働者の利害のため一致団結して東京都を迎え撃とう！ ブタ小屋施設芝浦収容所などに入ったら2カ月間軟

禁され、揚げ句の果てには何の保障もなく放り出されるだけだ。その場しのぎの対策など金輪際一切拒否だ。俺たちは俺たち仲間の力、仲間の団結を頼りに新宿で生き抜こう。俺たちの力で、俺たち野宿労働者の自らの力で俺たちの明日を、未来を切り開いて行こう！俺たちはやれば出来る。一人では「ダメ」な仲間でも力をあわせれば出来る事はいっぱいある。越年闘争がその証だ。俺たち野宿労働者にとって生きるか死ぬかの瀬戸際の決戦。この決戦を仲間の無限の力を引き出したたかおう。

仲間たち！臨戦体制を整え、4号街路に強固な防衛体制を打ち立て、都・建設局の最終通告を必ずや粉碎しよう。12・15、25をたたかい抜いた力で通告策動を蹴散らすぞ！そしてインフォメ前、監視小屋の仲間の拠点から港区、工事業者へ出撃し大衆行動の力で野宿者追い出しの共犯者どもにその責任を取らせて行こう！

俺たちは仲間と共に必ずやこの決戦を勝ち切る！

タコ飯場正田建設に対するたたかいは継続されている。越年期、上野でも多くの被害労働者が名乗りを上げた。そして、明日、正田建設で働いて賃金をまだもらっていない仲間が上野労働基準監督署へ乗り込むぞ！新宿の仲間が被害の仲間がいたら一緒に行こう。朝8時インフォメ前集合だ。福祉行動は通常通り朝8時半インフォメ前！

**不当逮捕糾弾！ ついに正体を現した殺人行政（＝青島都政）と対決し  
何があっても俺たちは新宿で生き抜くぞ！**

96  
1  
14

仲間たち！ 東京都はついに本性をあらわした。昨夜（13日）、都・建設局と新宿署は350人以上のものの警官隊・ガードマンを動員して、4号街路の仲間への「最終通告」を強行、100人以上の仲間の力で迎え撃った我々に対し、不当にも3人を逮捕するという暴挙にでたのだ（うち1人の仲間は既に釈放された）。

都知事・青島は前日の記者会見で、ぬけぬけと「力づくでする気はない」などと言っていたが、その舌の根も乾かないうちにこの不当な弾圧だ。東京都はこんな非道なだまし討ちが許されるとでも思っているのか？

俺たちは許さない！

仲間たち！ 殺人行政東京都を撃ち抜くたまたかの陣形を一層強くかため、仲間の命を仲間の力で守り抜こう！

俺たちは生き抜く！ なんと少しでも新宿で生き抜くぞ！

**いよいよその日がやって来る！**

**強制撤去を全国布陣で迎え撃て！！**

96  
1  
23

仲間たち！

ついに決戦の火蓋が切られようとしている。東京都・建設局は明日にも警察権力を導入しての

強制撤去を行なってくるだろう。13億もの無駄金を使い「動く歩道」を4号街路南北通路に設置するという名目で、奴等は俺らがこの2年間守り続けて来たダンボール村を破壊し、仲間のつながりと団結を押しつぶし、俺たちをバラバラにさせる事を目的とした芝浦収容所に強制収容させ、200名以上もの仲間を野垂れ死にへと追い込もうとしている。奴等には道理のひとかけらもない。だから奴等は撤去の日取りも、収容所の受付場所も事前に知らせることすら出来なかつた。寝込みを襲い、警察権力とガードマンを大量動員し力づくで俺たちを排除し、俺たちの家を破壊し、俺たちの私物を強奪し、俺たちを収容所に連れ去ろうというのが奴等の「人道的」なやり口だ。国際常識すら無視し、俺たち一人一人の個性や人格を無視し、俺たちを新宿から叩き出そうとする東京都の暴挙はまさに殺人行為そのものだ。

仲間たち！ これを許しておいたら俺たちの未来はない。仲間たち！ これを許しておいたら俺たちの生きる希望はない。仲間の暖かくてでっかい団結を作つて来たこの新宿から叩き出されて仲間たち！ どこへ行く？ どうして生きる？ 一人の力は確かに弱い。だけれども同じ境遇 同士の仲間が手を結び、団結すれば何でも出来る。俺たちが呼び掛けそして実践して来たのは、そういうたたかいだ。俺たちが作つて来たのはそういう団結だ。俺たちが守らねばならないのは、ただ4号街路だけじゃない、俺たちが作つて来たそういう仲間のつながり、団結こそ俺たちは体を張つても守らなければならない。俺たちはそう考え、仲間を訴える。共に決戦を！ インフォメ前に集まり、明日早朝4号街路へ！

大型バス勝利号に乗って釜ヶ崎の仲間が先頭の日雇全協の部隊が新宿にやって来たぞ。今月14日、山谷玉姫公園で開催された日雇全協総決起集会に新宿の仲間60人が合流し「動く歩道」建設実力阻止のたたかいを共に日雇・下層労働者の未来を決する決戦としてたたかおうと誓いあったその約束通り、全国の仲間が続々と新宿に結集している。新宿のたたかいは決して一人ぼっちじゃない。多くの仲間が俺たちと共に東京都の暴挙とたたかおうと支援に立ち上がってくれている。

決戦の布陣が着々と構築されている中、今日は日雇全協の部隊と新宿の仲間の一致団結したスクラムで都庁への先制パンチのデモをたたかい取った。150人の仲間が都庁内を練り歩き、正面玄関前では俺らの戦闘意欲を奴等に示すジグザグデモをやり抜いた。仲間たち！全国の仲間の決戦陣形の中、俺たちの団結を東京都に示し切ろう！寿からは連日、新宿闘争を支える炊き出しが朝（8時）夕（6時）毎日2回、インフォメ前に運びこまれている。同じ釜の飯を食いなから決戦を全国の仲間と共にたたかい抜こう！

新宿連絡会・事務局は強制的な手段での撤去作業を中止し、我々との「話し合い」で問題を解決するよう都に提案した「最終通告」を都に22日に提出した。これに対する回答が今日、都・企画審議室から電話であった。要約すれば「代表で話し合いはいつでもする用意があるが、前提条件をつけられると困る。立ち退き問題についてはすでに決定され、進められている事態であり、もはや動かし得ない」というものだ。都是我々の「話し合い解決案」すら拒否し力づくでの解決を強引に進めるといふ事だ。平和の道はついに絶たれた。奴等は機動隊とガードマンを大量に動

員して強行手段での全面衝突の道を選択してきたのだ。我々が一貫して「話し合い解決」を求めてきたにもかかわらず、それを拒否し、力づくでの解決を求めて来るならその混乱の責任は全て東京都にあるという事だ。非は東京都の側にある！

インフォメ前は強制撤去にそなえ、仲間の荷物置き場、炊き出し毛布物資などの緊急避難所となっている。三建に荷物を取られ、芝浦収容所に閉じ込められるくらいなら、仲間の力を頼りに、インフォメ前で仲間と共に今までのように生きていった方がよっぽどマシだ。インフォメ前は今回の「動く歩道」建設に伴う撤去区域の対象外だ。もし建設局が混乱に乗じてインフォメ前まで手をかけようとするなら仲間の力で当然反撃だ。

荷物や貴重品をインフォメ前に預け、新宿の仲間は4号街路で強制撤去を迎え撃とう！4号街路北側出口（三井ビル方面）の監視小屋では24時間体制で敵の動向を監視している。建設局よ来るならいつでも来い！反撃の体制は何時でも整っている。俺たちは芝浦収容所への入所を拒否し、新宿で追い出しに抗し、仲間の力を頼りに生き抜いて行く。たとえ4号街路が奪われたとしても俺たちの魂までは奪えない。新宿連絡会は仲間と共に新宿闘争を継続する！

やられたらやりかえせ!!  
4名逮捕・荷物強奪・住居破壊許すな

きょう朝6時、600人以上の機動隊・ガードマンをしたがえて東京都はついに地下通路に踏みこんだ。最初に4号街路南側(94年2月にフェンスがつくられ封鎖されたほう)に住む仲間の狩りこみが始まり、7時すぎ、新宿連絡会と日雇全協の部隊が密集して防衛する北側通路監視小屋周辺での攻防となった。7時20分ガードマンが突入してバリケードを壊し、ついで機動隊が突入してガードマンとはさみうちにするかたちで座りこむ仲間たち100人をゴボウぬきにし、そのなかから連絡会の中心メンバーを狙い撃ちにして4人を逮捕させた。さらに奴らは野宿者叩き出し計画の本性をあらわにしながら「動く歩道」と関係のないインフォメーション周辺に襲いかかりダンボールを破壊していった。

4号街路の入口はガードマンがピケを張り、中では都職員が「説得」と称して残った仲間を芝浦収容所に収容していった。そして下請業者「首都工業」が他人の住み家だった場所を蹂躪している。

闘いは終わらない。奴らはまだまだやってくる。俺たちはインフォメーション前の拠点を守りぬき獄中の6人の仲間の早期奪還をかちとって、運動破壊とすべてのダンボールハウスの撤去、野宿者の叩き出しというたくらみを打ち砕き勝利をつかみとるまで闘いぬく。

短期間かぎりの施設に放り込んだあとのことは知らないというやり口は今に始まったことではない。山谷でも、新宿でも、冬が来るたびに、アプレの季節が来るたびに同じことがくりかえさ

1.24前後の弾圧 1月13日の都の告知行為時の「公妨」1名。1月24日早朝の4号街路座り込み闘争に於る、新宿連絡会主要メンバー3名の指名弾圧。その直後の抗議行動と翌々日に山谷争議団メンバーへの指名弾圧が続いた。







れ、俺たちはそのたびにもっと根本的な対策を求めてきたが、どんな行政機関もともにこたえたためしがない。生活保護というのも実態はひどいものだが、俺たちには生活保護すらろくすっぽ受けさせない。なぜか。短期間収容して放り出す、これをくりかえしていればそのうちいなくなるだろうというのが奴ら―役人や政治屋の願望であり、基本姿勢だからだ。いなくなるということは、だんだん弱って死んでいくということだ。散り散りになって早く死んでくれ、要するにこれが奴らの願ひであり、そのために「動く歩道」の工事中だけ野宿者を閉じ込めて居場所を奪うための仕掛けというのが芝浦収容所の正体だ。

ところがどっこいそうは行くかっていうの。死ねと言われて、はいそうですかと死ぬ人間がいるものか。この冬の夜中に寒空の下に放り出し、強制収容所にプチ込み、帰る場所を奪い、なしの財産さえすべて奪う。雨と風にさらされて立って寝ろというのか。たわけ！ 人間をゴミと間違えるな。人間は寝るときは横になり、寒ければ凍えて死なないようにするんだ。あたりまえだ。あたりまえのことが許されなければ死ぬ気で抵抗するのがふつうだ。

俺たちは人間だ。飯を喰い、眠り、寒ければ凍える。泣き、笑い、そして怒る。底辺の労働者として、そして野宿生活者としてやられつづけてきた俺たちのやり場のない思いは、奴らの横暴によって今はつきりと怒りとしてのかたちを与えられた。怒りと、怒りに力を与える団結が俺たちの財産だ。どんな迫害にも屈せず、勝利するまで闘い生きぬこう！

東京都は94年2月17日の強制撤去でダンボール小屋を一掃したつもりだったが、そのあとどうなったか。皆この場所に戻ってきた。こんどももう一度同じことが起きるだけだ。奴らはまるで

学習しない。ガードマンと機動隊の数を増やして力づくで押しきればこと足れりと思っていない。俺たちを舐めきり、人間を見下しきった官僚と政治屋どもは腹をくくったホームレスのド根性を見て腰をぬかせ!

インフォメーション前で炊き出しは弾圧をはねのけてやりぬく! 日雇全協の仲間が寿町で飯炊きを担っている。

朝飯 8時

晩飯 7時

インフォメーション前拠点を守りきり、強制撤去と弾圧を粉碎せん!

新宿連絡会/日雇全協

**卑怯下劣な東京都に対してもはや妥協の道はない  
俺たちは「勝った」と言えるまで闘う**

86・1・28

都市博中止を公約にかかげ、「開かれた都政」を旗印に弱者の味方として登場した青島知事に、最初は俺たちも期待した。それまで一切放置されてきた俺たち野宿者や日雇労働者の失業・就労対策、生活保護行政の転換を、青島知事ならあるいはやってくれるのではないかと思った。しかし、青島は俺たちの交渉要求を一貫して拒否しながら、あいもかわらぬ短期施設収容の繰り返しと就労対策の放置という政策をつづけ、今ついに野宿することさえ許さない、つまりは生きるこ

とをやめろというにひどい強権の発動にいたった。

「動く歩道」工事強行のうらには、財界の反対を押しきって都市博を中止した青島知事の政治生命がかかっているとも噂される。それがあながち下司の勘繰りとも思えないほど、着工にいたるまでの青島の態度は強硬で、一方的で、その論理は一貫せずあやふやだった。理由などどうでもいい、結論だけは変わらない、というかのように。かつて佐藤栄作を「財界のオトコ妾」と罵倒し、成田治安法による強権発動に反対した青島はそこまで変節したのだろうか。

24日、4号街路北側通路の防衛に起った仲間たちへの弾圧は苛烈で、不当で、非道だった。ピラを書き、福祉事務所との交渉を組織し、炊き出しを呼びかけるというような役割を担ってきた3人の仲間が「こいつは検挙」と選別されて逮捕された。頭を割られ流血した仲間もいる。ひとりの仲間は機動隊にゴボウ抜きされる際、両手両足を抱えられ逆さまに引きずられて頭を打ち、今も頭痛と吐き気を訴えている（この仲間は新宿福祉事務所員がレントゲン撮影が必要と判断して救急車を呼び百人町の春山外科に運ばれたが、レントゲンどころか頭を触ってみただけで追い返された。27日にふたたび救急車で春山外科に運ばれたが、「お前また来たのか、臭さが同じだからわかった」などと言われて熱も測らず鎮痛剤を与えられて追い返された。野宿者の現実はこのものだ。収容所の職員や、収容所にたまにやってくる医者も似たようなものである）。

13日の東京都による「最終通告」の際には、倒れた背中にジュラルミンの盾を垂直に落とされ、歩くこともできなくなつた仲間もいる。

権力が意志を貫こうとするときは、どんな暴力が行なわれるか。おれたちはそれを身をもって知った。

新宿のホームレスは、権力の横暴によってこそ、実力での抵抗をためらわれない主体へと変えられた。

都が「温かい食事と清潔な衣類を用意しました」とあたかも天国のように宣伝する芝浦収容所<sup>\*</sup>は、94年春には2名の死者まで出している従来の収容施設の焼き直しに過ぎず、有刺鉄線で囲まれた敷地や外出禁止措置などむしろ悪くなっている。あとガス室があればアウシユビッツだ。この場合はガス室ではなく出所後の行き場を奪われて路上でじわじわと殺されていくだけのちがいがいる。200人の定員に対し、27日現在60数名の入所者しかいないのはあたりまえだ。ホイホイと収容所行きに応じることが自分たちのねぐらを奪われることだということがわからないほどおれたちが愚かだと思っているのか。行き場所のないおれたちの弱味につけこもうとする東京都は、卑怯で下劣だ。

おれたちは都が暴力による排除を行なう前日まで話し合いによる解決を求めてきた。対策の立てかたしだいではここから立ち退く用意がある、とまで言った。しかし都は「強制撤去・着工の決定は動かない」と交渉要求を蹴り、さらには「撤去後なら話し合いに応じる」などと言いつつっている。

芝浦収容所 「温かい寝床と食事」「仕事紹介」という甘言で芝浦の運河にかこまれた都所有地に、更に有刺鉄線で囲み、唯一の出入口にはガードマンを常駐させたプレハブ収容所。

なぜここまで野宿者への根本的な生活保障・就労対策をいやがるのだろうか。

奴らは、おれたちに早く死んでくれと願っているのだ。奴らの「対策」とは、おれたちがひとり残らずくたばるまで、散り散りにすることと収容所にブチ込むことで世間から隠しておくことだ。

いらなくなった労働力の処分装置として、青島都政はまさに産業界の走狗へとなり下がった。

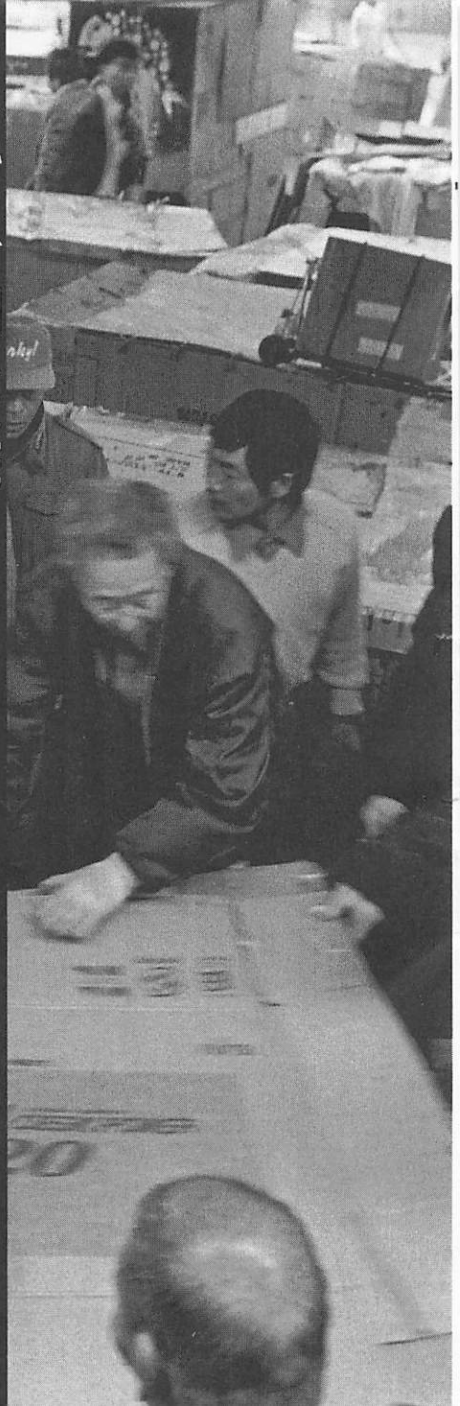
青島都知事よ、かつての参議院議員青島幸男に罵倒されるべきはお前だ。

仲間たち！ 釜ヶ崎をはじめとする日雇全協の部隊はきょうでいったんそれぞれの街に帰るが、あしたからもインフォメーション前での夕方の炊き出しはつづける。

ともにたたかいぬこう！

◆そして闘いは続く

……96・1・24—97・5



強制排除は社会に大きな衝撃を与えた。人々が青島都政に託した希望は、強権的な都の排除によって最終的に断ち切られた。誰もがそう感じた重大事件であった。この社会からの非難に対し青島は、記者会見で「抵抗した者のほとんどが支援者だった」と嘘八百のデタラメを並べ、自らの正当性を主張する。しかし「芝浦臨時保護施設」に入所した者は初日わずか四十三人。「暖かい部屋と三度の飯」に「百人が飛びつく」と考えていた都は面子を失った。夜中に關手配師のように地下通路を徘徊し、何も知らない労働者に声をかけ、収容所に送り込んでいったのは、この数日後であった。結果、被収容者は七十九人にまで増えたが、都の算段は大外れした。

それでもまだ、東京都は自らの失策を認めようとしなかった。収容した労働者に、プライベートを侵害するまでの面接を行ない、毎日職安に就職活動に行かせ、暴力団の経営する建築作業員宿舍や、雇用保険や労災保険にも加入していない違法な業者に、とにかく仕事を決めさせて強引に送り込んだ。こうして三月末に「五十六人の就職が決まった」という発表が行なわれる。しかしその後の追跡調査によって、三ヵ月後に就労を継続している者はほとんどいなかった。解雇や賃金の不払いなどで就労の道を断たれ、新宿の路上で再び出会った労働者も数多くいる。都はプライベートに関わると調査を中断したが、結局のところ就労継続者がいなかったのである。

一方、四号街路から排除された労働者たちは収容所行きを拒否し、西口インフォメーション前広場に「緊急避難所」を作り、ブルーシートで覆った仮設テントは二月十二日まで維持され、毎日一回の炊き出しで仲間を仲間自身の力で支えていった。都は西口地下通路の全てからの排除を目論んでいたものの、労働者たちは西口広場を新たな居住拠点にして踏み止まり、その後、村の再建に着手していく。東京都の動向を窺いながら、少しずつ始められた村の再建は、ダンボール集め―小屋建設を地道に進めながら、現在の二百軒の村へと発展した。

窮屈な空間に軒を並べる西口広場の「ダンボール村」は、四号街路時代と比べると、長屋風のゆったりとした雰囲気はなく、ギスギスした感が強いのは否めない。また上下の人間関係を典型とする労働者間の矛盾も煮詰まり、連綿たる会運動は重大な局面を迎えた。下層社会に根強くある、労働者間の暴力をもってする支配に、労働者の横の関係Ⅱ団結した力でどう立ち向かうかが問われた困難な時期を乗り越えながら、「村」は労働者自身の力で維持・発展を勝ち取っていった。



こうして労働者が団結し居住地を再建する一方で、「東京都のように排除しろ」と叫ぶ声も形成され、都に強く強制排除が、京王帝都電鉄の手で二月十三日に行われ、フェンスで通路を塞いでしまう。京王は「今までの苦情が三倍になった」との理由で、排除を正当化する。そして、都が強制排除を正当化する中で沸き起こるのが、少年らによる悪質な襲撃事件だ。五月二十三日には、代々木公園で野宿する二名の労働者が少年らにより襲撃され、一名が後日死亡する。また北区の赤羽でも襲撃殺人事件が起き、隅田川周辺でも人命に関わる襲撃事件が頻発する。少年らの差別意識は「東京都がやったんだから、俺らがやって何が悪い」という言葉に端的に示されている。

東京都はこうした一連の諸結果に全く責任を負おうとせず、都の排除・収容政策はすべて成功したとの見解を崩そうとしていない。さらに芝浦収容所をモデルケースとした、常設の収容所を「自立支援センター」と名付け、都内五カ所の設置をぶち上げた。都と区の連携で恒久的に利用できる施設が設置されるとすれば、対策の一步前進には違いない。しかし芝浦がモデルであるならば、強制排除と施設収容、就労斡旋対策なき劣悪業者への送り出しがセットとなり、「自立支援センター」ならぬ「人夫出し飯場派遣センター」となるのは目に見えている。都区は協議を重ねてきたが、結局センター設置候補地すら選定できず、八方塞がりの都は、次なる強制排除の受け皿となる収容所を単独で建設することを決定した。これが北新宿の収容所問題である。都は何一つとして反省しないばかりか、また同じ手法での解決策を自論んでいるわけである。同じ排除と同じ収容、そして同じ対策。これでは起こる結果も同じである。現在の新宿の西口の現状を誰が予想し、誰が望んだのだろうか。「環境の浄化」を叫んできた地域の人々でさえ、こんな状態は望まなかったに違いない。都は強制排除で自らの首を絞め、問題解決の糸口を見失い、ますます混迷の度を深めてしまったのである。

九七年五月一日、新宿野宿労働者は労働者としての誇りを持って、三回目のメーデーのデモに立ち上がった。その数は二八〇名。強制排除に抗する闘いは、野宿を強いられた労働者の力で、現在も粘り強く続けられている。

「路上で死んだ仲間たち！ 残った俺たちの闘いを見てくれ！」——野宿労働者の闘いは、困難に立ち向かい今日も一歩ずつ進められている。

なぎさ寮の仲間たち！

元氣ですか。寮の生活はどうですか？

いま、入っている仲間のなかには、1月24日の追い出しに、からだを張って闘った仲間も多いと思う。おれたちは、機動隊・ガードマンを千人も投入して、新宿で生き抜く仲間を追い出した。東京都をけつして許しはしない。

東京都のもくろみは、みごとに破産した。なぜなら仲間は、西口地下のインフォメ前をはじめ、その周辺に段ボール小屋を再建し、ふたたび、団結をうちかためているからだ。

2月10日には、東京都のまねをして、京王電鉄が、新線のロータリーにはフェンスを、通路には、植木鉢と金網を置いて、仲間たちを追い出した。俺たちは、これらすべて、仲間を追い出し、野垂れ死にへとおいやる策動に反撃をくりかえしている。

山谷の石浜公園というところでも、住民が先頭にたつて、ブルーシートを張って定住している仲間40人を追い出した。隅田川に移住した仲間たちは、寄り合いをかさねて、抗議の意志をかためている。黙っていたら、ばらばらにされて、殺されていくだけだからだ。

インフォメ前の寄り合いでも、三月のなかには、このなぎさ寮をはじめ、さくら寮、そして、あの芝浦寮から、たくさん仲間が帰ってくるので、どうやって仲間を迎えようかと話し合いをやっている。

ダンボールをかこおうという仲間には、ひもやガムテープを用意し、一人で作るのがむずかし

い仲間には手を貸して助け合おう。夜、ダンボールで寝て、昼間はたたんで移動する仲間のためには、ダンボールをあずかれないかというはなしも出ている。

寮への面会行動はもちろん、池袋・高田馬場・渋谷へのパトロール、山谷でのたきだし、すべて、仲間の力でやりぬかれている。

なぎさ寮の仲間たちも、新宿へ帰ってきて、ぜひこういう行動に参加してくれ！

新宿連絡会

### 3・15都庁行動で、またもや2名の不当弾圧！ 弾圧ハネのけ、再度都庁へ

15日、新宿の仲間は、山谷の仲間とも手を取り、都庁行動にとりくんだ。14日でなぎさ寮がしまり、都、区合同の越冬対策は終わりをつけた。が、なぎさ寮から新宿にもどってきて、いまや野宿する場所すらほとんどない。1月24日、都のヤツらが、「動く歩道」着工を名目に西口地下・4号街路をフェンスでかこい、2月10日には、京王電鉄が、新宿駅周辺からおなじように仲間をしめだしてしまったからだ。1月24日のたきだしと同時に行なわれた「芝浦寮」への収容にしても、都がケタオチ、ヤー公業者の「手配師」になりかわり、寮の仲間をおくりこんでいる実態がますますかかっている。「この一連の責任を、都にキツチリとらせよう」——新宿、山谷の仲間はそう声をはりあげ、都庁へとむかった。

企画審議室、福祉局、労働経済局に怒りの声をたたきつけてまわり、そして最後、青島に一声

かけてかえろうと、知事室までやってきたとき、しばらくしてとつじよポリどもが仲間におそいかかってきた。またしても2名の不当弾圧だ。弾圧ゆるさん！

弾圧にもめげず、18日からは、動く歩道決戦・越冬闘争の総決算として、あらためて集中闘争に突入、都とともに、芝浦寮の仲間をケタオチ、ヤー公業者に手配している芝園橋職安を迫及するなど、新宿の仲間はねばりづよくたたかいてきた。25日の都庁行動は、この集中闘争の締めくくりだ。都に対し、あらためて反撃ののろしをあげていこう。都下で野宿を余儀なくされているすべての仲間とむすびつき、かならずやりかえしていこう。高田馬場の仲間もあつまつてくれ！

芝浦寮が閉鎖された。最後まで寮にのこっていたのは11人だという。早朝、新宿の仲間が寮に到着する以前に、すでにこの11人はべつの寮に移送されていたらしい。この芝浦寮、「入寮者に就職をあっせんする」ことをおこな目玉にしていた。

がしかし、だ。この間、都によるメチャクチャな「就職あっせん」の実態があらわになってきた。都がさがしてきた就職先のおおくは人夫出し業者、それも日当8千円程度のケタオチばかりだ。なかには、社長が「エンコツメ」(指ツメ)しているような業者までまざれている。就職あっせんなんて、チャンチャラおかしいぜ！

### 新宿西口ダンボール村強制撤去

#### 芝浦収容所デタラメ就労対策

#### 「2カ月あれば仕事なんかとついでにもなる」(青島都知事)その2カ月後

1月24日、千名近くの機動隊、東京都職員、ガードマンによって、新宿西口地下道に建ちならんだダンボールハウス村が強制撤去されて二カ月がたちました。撤去によって追い出した住民を収容するため港区芝浦につくられた収容所は3月22日閉鎖されました。この施設は、今まで都が一切放置してきた就労対策完備を売り物とし、職業紹介は近くの芝園橋職安によって行なわれませんでした。その実態はどんなものだったのでしょうか。

■求人票には日当一万一千円とあったのに、面接に行ってみると「仕事が始まったら八千円に下げろ」。

■「宿舎完備」という会社に面接に行ってみたが、自前の宿舎ではなく長野県の現場に元請の建てた宿舎があるだけ。「その現場が完成したらどうするのか」と聞くと答えられない。

■紹介では日当九千円だが、寮費・食費三千円が引かれて実際は六千円。

■大半の業者が失業保険も社会保険もなし。

■面接に出てきたのが小指を詰めた、一見してヤクザ者。

■少なくとも一業者は、上野駅周辺でヤミ求人を行なっていることが確認されている。

要するに、手配師を通した暴力団支配下のヤミ支配となんら変わりがないのが実態です。これ

が東京都が強制撤去のための収容であるということを覆い隠すためにあわててデッチ上げた就労対策です。芝園橋職安はわれわれの追及に対して入口をシャットアウトしてだんまりをきめこみ、東京都労経局は「求人時の条件が実際とちがうのは一般の求人・求職でもよくあること」と居直っています。職安の求人票がそんなもので当たり前といえるのでしょうか。しかも、収容所の中からでは他の就職先を探すのは困難です。

収容した79人中56人が「就職」した、野宿に戻る者はいないという都の宣伝と裏腹に、新宿には次々に芝浦から仲間が帰ってきています。以前の地下通路はすでに「動く歩道」が着工されて帰ることができず、より人通りの激しい、手狭な場所でもより困難な状況を強いられています。

都は「今回は大成功、今後もこのケースを手本に」といっています。しかし、成功したのは撤去と叩き出しだけです。当事者と話し合うなかで対策を見つけ出すという姿勢を忘れた都の施策が、全都で増え続ける野宿の仲間にとつて有益なものになることはないでしょう。

「清潔な衣類と温かい部屋を用意しました」と恩着せがましく宣伝しながら住居を破壊していった東京都。そこで生きている人間の生活を考えるより、とにかく撤去して隠蔽することを第一とする東京都の姿勢を、われわれは決して許しません。

「西口地下全面清掃」本日終了  
ザマーミロ!! 団結の力で撤去阻止したぞ!!

96・8・28

8月26・27・28日と3日間おこなわれた、西口地下全面清掃。第三建設事務所（三建）がもくろんでいた部分撤去を完全に阻止し、「混乱」を期待してあつまつたマスコミや、弾圧の機をねらうポリ公ども、そして何より東京都・三建の鼻をあかしてやったぞ!!

オレたちがシラミの問題、においの問題、体の問題を考えて害虫駆除やフロ・洗たくの機会を保障しろとうったえたときには一切応えず、「通行人の苦情」をたてにして、オレたちにとつてもっとも不利益なやり方での清掃を行ない、しかもどさくさにまぎれて「動く歩道」入口付近に住む仲間を追い出そうとした役人ども!!

「そうじはやらせてやる、しかし撤去は許さない!!」

朝は5時から荷物の移動やかたづけを、体の弱い仲間を支えながら協力してやりきり、夜中は1時までダンボールあつめに皆で走りまわった。この3日間で約30軒のハウスを新築、清掃が終ると同時に「それ!!」とばかりにかつきこんだ!!

「4号街路の入口付近は通路確保のため、清掃後も寝泊りを禁止します。カラーコーンをおかせてもらいます」

3回の交渉で、ついに撤回しなかった三建。そこには、南北あわせて30人以上の仲間が住んでいる。ほかに行くところなんか無い。

「戻ってこれる、と約束するまで動かない。そうじは今朝オレがやつといたから必要ない!!」

ハウスの仲間がたてこもった。三建はしぶしぶ通過。ついに一軒の撤去も許さず勝利したぞ!!  
 三建よ、なんだか知らんが仲間のハウスの前にカラーコーンがおいてあるぞ、とっとと持って帰ってくれ。

3日間、三建以上に働いた仲間たち、ひとまず体を休めてくれ。9月から、撤去許さない秋の闘いだ!! 獄中の仲間を一日も早くとり戻し、この3日間の闘いで新たに生まれた団結の力をバネに、全都つらぬいてガンバロウ!!

新宿連絡会

### 笠井さん・本田さん、奮進!

96・9・25

1・24、4号街路の大きかりな強制撤去で、不当逮捕・起訴され、東京拘置所に入れられていた笠井さん・本田さんがきょう、釈放された。

二人が帰ってきてきて百人りき!

俺たちの闘いをますます前進させよう

新宿連絡会



「清掃」を名目とした追い出しを許さない！  
8月と同じ形で12月中旬都三建が、西口地下の「斉清掃をやるぞ」をカカしている！

96・11・10

仲間たち！

都・第三建設事務所が12月中旬に西口地下道の「一斉清掃」をやると一方的に告知してきた。

俺たちは7日、30名の仲間と共に中野にある三建におしかけ副所長・山口剛あいてに交渉してきた。その中で8月の時と同様①強制的な手段は取らない②警官を配備しない③連絡会と話し合いを行なうの3点が確認させたものの山口は、

「我々は全部いなくなることを望んでいる」

「ダンボールの数を減らすのが清掃の目的だ」

「強制撤去をしようと思えばいつでも出来る」

と「清掃」というのは名目で、真の目的は追い出しをかけることだということを隠そうもしない。しかも、禁止区域を設ける、今後は2カ月に一回はやりたいなどとヌケヌケとぬかしてきた。山口は右翼とつるんで俺たちを新宿から追い出そうと躍起になっている張本人だ。人の命より道路の方が大事だと思ってる都・建設局職員らしく奴は「清掃」を名目としたイヤガラセや追い出しを次々とかけてくることを狙っている。

俺たちは無用な混乱は望まないものの、「協力できることとできないことがある」と態度をキツバリと通告してきた。

「動く歩道」「突起物」の次は「清掃」で俺たちを追い出そうと思ってもそうはいくか！ 50億

の赤字をかかえているくせに必要でもない事業を繰り返し都民の税金を浪費する余裕があるんなら、きちんとした生活・就労保障ぐらいできるはずだ。

仲間たち！「清掃」によるイヤガラセなど恐れるに足らずだ。俺たちはスジを通し、仲間のつながりを強めながら、新宿での俺たちの最低限の生活を守り抜こう！もし、奴等が強制手段をとるようなら俺たちも断固としてたたかい抜く！

右翼新聞として有名な「全東京新聞社」がよびかけて、東京都・建設局と新宿区、地元商店会の連中が去る9月26日「意見交換座談会」と称する会を開催していたことが発覚した。司会を新右翼の小田天界がつとめる新宿駅西口地下から野宿者をいかに排除するかの懇談会だ。

地元商店街の排外的な利益を代表するかのごとく、これまで「全東京新聞社」は野宿者の排斥キャンペーンを張りめぐらせてきた。そして、ついに都・建設局と新宿区を巻き込んだ談合まで開始した。

「懇談会」では都建設局道路管理部部長の一ノ倉は「全東京新聞が今年の4月の時点から公平な客観的報道でキャンペーンを続行していただき都民サイドの世論が湧いてきたことに、ここに改めて敬意を表します」と右翼新聞社を持ち上げ、地元商店街の「ホームレス排除」要請に対しては、都建設局道路保全担当部長古川は「タチの悪いホームレスには警察の協力をおおぎます」と再度の強制排除を示唆しながら地元への協力を呼びかけている。

「懇談会」には三建副所長の山口や新宿区広報課長の三橋まで出席し、排除にむけた地元の連携

を要請している。

青島の「路上生活者対策」の本音がまたぞろ暴露された！ 右翼とつるんで排斥運動を張りめぐらせ、襲撃や虐殺を扇動し、警察力をつかつて再度の強制排除、若い仲間には自立支援センター経由で極悪飯場で強制労働、年を取った仲間はほったらかして野垂れ死にだ。

13億もの税金を投入して作った「動く歩道」で俺たちを排除したいと思っても、結局野宿する場所が変わっただけ、しかも青島の本性が暴露され都庁には都民の非難の嵐。そこで、今度は右翼とつるんで再度の強制排除を狙っている。結局地元には金を使うが、社会の底辺で苦しんでいる労働者には一文の金も使いたくない。なにが「庶民の味方」だ！

底辺下層の俺たちが野宿生活を余儀なくされている理由は、ゼネコンや大企業には金をバラまくが、福祉予算の削減など庶民を切り捨てて来た都政をはじめとする今の政治のあり方に問題があるからだ。それを「野宿している者が悪い」とは何たる言い種だろうか？

俺たちの問題を本気で解決したいなら、失業対策事業なりで都の公共事業に就労させろ！ 生活保護の抑制をやめ、法を当たり前に適用しろ！ これが本当の対策というものだ。

強制排除の姿勢を改めようとする青島都政を怒りをこめて弾劾する。

## この冬、でっかくてあったかい仲間のつながりを！

96・11・26

仲間たち！

厚生省トップをまきこんだ汚職事件が新聞をにぎわせている。もちろんこんなのは氷山の一角だろう。福祉を食い物にする社会福祉法人と福祉官僚の癒着は東京都を始めどこでも日常的に起こっているという。「自立支援センター」計画など、この癒着の構造の上に有隣協会や、やまて企業組合のような俺たちを食い物にしてきた法人を肥え太らせるだけの話だ。

東京都はこの3年間で7億円以上の裏金をつくり、官僚どもが飲み食いに勝手に使っていたという。一方で3千億以上の赤字財政の中、臨海副都心に進出した企業の地代を50%も引き下げするなど大企業優遇の政策を厚顔無恥にも発表した。そして「貧乏人」の俺たちにはカップ麺ひとつで飢えをしのげ、「不法占拠」だから出て行けと強制排除だ。

福祉だとか言いながら結局金のない者からなけなしの金をまきあげ、官僚や企業が肥え太るというのが、この国の行政のやりかただ。まったくどうかしてる。

俺たちは汚職まみれの青島や東京都職員よりよっぽど真つ当な生き方をしている。仲間を助け合い、いたわりあい、横のつながりで厳しい生活を支えあっている。金や家のない俺たちでさえ、こうやってちゃんと生きているんだという事に自信をもとうや仲間たち！そしてその事を腐れ切った行政にたたき付けていこうじゃないか！金にまみれた役人どもとどっちが「立派」な人間なのか勝負してやろうじゃないか！

そのためにもこの厳しい冬を仲間の力で乗り切って行こう！俺たちに残されているのは仲間

とのつながりだけだ。生き抜くための越冬闘争を準備して行こう。

あさつては久々の都庁弾劾行動だ。あさ8時インフォメ前に集まってくれ！

### 私の一年をふりかえつて(仲間からの投稿)

私が新宿の住人になって早くも一年になりました。あつと言う間の一年でした。その一年間のあいだ色々な出来事が有りました。私は平成7年11月11日に先輩達にあたたかく一人の仲間として迎え入れてくれました。本当に心から感謝して居ります。今まで健康に生活を送ってこれたのも諸先輩達のおかげだと感謝して居ります。これからも何分よろしくご指導を下さいますよう心深くお願い申し上げます。私も今一年ふりかえつて見て、今年一年は1月13日、吉村さんの不当逮捕に始まり、第二弾として1月24日の笠井、本田両名の不当逮捕により今年も終わろうとして居ります。裁判も今年から来年(平成8年→平成9年)へと続きます。3名は国家権力、検察権力により、何にも存在しない罪名により我が身を裁かれようとしています。法治国家である我国日本はこれでいいのか。警察権力、また国家権力によりありもしない罪例をつくられ、仲間3名を法の名においてでっち上げられた罪をさせられようとしている。我国日本は何を考えて居る。今の日本はたるんで居るのではないか。国民があつて国、そして国があつて国民なのだ。今のわれわれホームレスにしたつてそうである。何回も何回も都庁や区役所などに現状の事、また最低限度の生活そして仕事をとうたい、仲間何人かで都庁なり区役所に出向き、当事者である我々野宿労働者(ホームレス)に少しでも生きる光をと、うたい続けて来ました。そのうたいも都庁な



NO 10



り区役所は木のこっばで鼻をかむように我々野宿労働者に何の回答もなく一方的な態度で現在にいたっています。1月13日、1月24日のおいだしにしても都庁内にある第三建設事務所（三建）が当事者である野宿労働者また「支援」団体である「新宿連絡会」に何の話し合いもなく一方的な乱行をしたばかりか、多数のガードマンそして警察官、都庁職員と一体になり、仕事もない、家どころか食べ物もないその日一日をかるうじて生活している野宿労働者（ホームレス）を人間あつかいされるでなくゴミあつかいにされ現在にいたって居る所である。私は声を高らかに我々野宿労働者（ホームレス）も人間だ。手足を切ると赤い血もでる、夜になれば眠くもなる。時間になればハラもへる、俺たちは粗大ゴミではないのだと、これを高らかにさげびたい。これから裁判や寒い越年、越冬にむけて仲間一人一人の力でおたがいに助け合って大きな仲間の輪をつくり、いつか仲間の皆んなであの時はいかがであった、ああだったと話が出来るように力をあわせてがんばろうではないか！

今からが大変だ。東京都（都庁内第三建設事務所・三建）はまた、野宿労働者（ホームレス）に対し12月に一斉清掃と題しておい出しをもくろんでいます。平成8年8月に一斉清掃をしたばかりなのにそんなによごれてもいないのに清掃をしなければならぬのか！ ふしぎである。清掃というのは口実で有り、俺たち野宿労働者（ホームレス）に対すのいやがらせにすぎないのである。今から都なり警察は、俺たち野宿労働者（ホームレス）を目のかたきとしておそつてくるだろう。それに対抗して弱気になったり、後方的になる事はないのである。俺たちが国に対し、また都庁、福祉に対して人間としての生きる権利を保障せよと言っている事は、当然のことである。



るからだ。今から先、3、4年先にはまだまだ多くの仲間が増えることであろうと私は思う。その時に国や都がどのような野宿労働者に対しての対応策また解決をするのか見物である。まあ、今わかんと思うけど？

それから先輩、仲間たちに二、三お願いとご協力があります。今から越年・越冬にむけて、福祉や都庁へ話し合いにいく事が多くなると思います。その時一人より二人、二人より三人と仲間の力を貸して下さい。お願いとご協力よろしくたのみます。今年の冬は何かと障害が有ると思うが仲間全体の総力をあげて越年越冬をのりこえて行こうではないか！ 皆んなで今たたかっている福祉問題また自立支援センター、その他の取り組みに全面勝ちきるのでと心にきざみ新宿連絡会を中心にがんばろう。それから最後になります。裁判の事ですが傍聴に行っている仲間はわかっていると思いますが都庁や警察の「デッチあげ」が目に見えており、無実、無罪であり、吉村、笠井、本田氏3名無罪勝利まちがいなし。無罪判決の時は、都庁はもとより警察、国を相手取りこちらから逆に不当逮捕、不当拘束をした都庁、警察に謝罪させなくてはと思います。特に三建の宮沢は。長きにわたり吉村さん始め、笠井さん、本田さんがどれだけ苦しい思いをしたか。宮沢が有りもしない空想のデッチ上げばかりか、嘘はつびやくならべて証言した事から3名が長きにわたる勾留生活をしなくてはならない事になったのであるからして3名はもとより俺たち仲間にも謝罪すべきではないかと思う。

最後に日、一日と冬に向け寒さも強まります。仲間たち手をつなぎおたがい声をかけあい、寒い冬をのりこえようではないか！

平成8年11月14日

新宿西口地下住人 K 当年55歳

第3回新宿越年・越冬斗争突入！  
 12月12、14日の三連「音清掃」を迎え撃ち  
 この冬追い出しに負けない仲間の広い団結を！

96.12.1

仲間たち！

本日、第3回新宿越冬闘争突入にあたり、残念な報告から始めなければならない。昨日30日早朝、安田生命前で50代の仲間が亡くなっている所を発見された。最近流れて来た仲間のようだが、酔って寝ているところ明け方の寒さで熱を奪われそのまま冷たくなってしまったらしい……。無念追悼。

インフォメ周辺では11月14日に発見された仲間とあわせ、この冬2人目の犠牲者だ。28日には交番近くの仲間も救急車で運ばれたが亡くなってしまったという話もあり、西口地下だけで3人も尊い命が奪われたことになる。

この3人の仲間の死は今年の冬の厳しさを確実に物語っているだろう。長期にわたり強いられる野宿生活、強制排除や追い出しによって寝場所すら奪われている現実、福祉対応の立ち遅れなど、俺たちを取り巻く環境は、俺たちが強いられたコミュニティを作りながらも、それでも年々悪化している事は確かだ。その現実には苛立ち、仲間は酒に走る。そして命を縮め、内部矛盾も拡大する。俺たちが言い続けて来た団結も、現状はミミッチイ団結しか作り得ていない。仲間たちは生活防衛に必死となり、ゆとりすらなくなっている。

3人の路上での死を考えると「一人の野垂れ死にも許すな」という、俺らが毎年言い続けてきた越冬闘争スローガンの虚しさを率直に感じざるを得ない。一人どころか俺らは毎年、何人もの路上に横たわった死体と向き合わざるを得ない。いくら「立派」なことを言ったとしても、今の俺たちの現状からは、それは単なる「いい事言いい」に過ぎず、混沌とした現実の外でスピーカーがガナっている事と似ている。

「もうこれ以上死者を出したくない」というのが俺らの今の率直な気持ちだ。そして、それ以上の事は今年の冬は言うまい。俺らが「立派」なことを言うたびに根底からその言葉が崩れ去る俺たちの現実に対して、俺たちはそれに向き合うことしか出来ない。

散々な今年の冬の入り口に際して、死者に花をたむけることしかできない弱い俺たちの主体を問い直そう。そして、仲間全員が生き抜くための方策をもつと真剣に考えよう。たたかえばどうにかなるなんて、学生運動じゃあるまいし、もはや俺たちにはそんな崇高な理想や幻想など持ち得ない。俺たちのたたかいは今日一日を生き抜くための格闘だ。明日の朝の保証など誰一人として持つてやしない。そしてだからこそ、この厳しい冬の中、今日一日を生き延びていくための方策を皆んなで考え、実践しよう。それが俺たちの越冬闘争である。

今年の1月24日、東京都は4号街路に住む仲間たちを新宿から叩き出すために「動く歩道」建設を名目とした強制排除の暴挙を強行した。過ぎ去った事を今更という仲間もいるかと思うが、この強制排除という対策は東京都が取り得る唯一の「路上生活者対策」であるという事を、是非

肝に銘じてもらいたい。

□先のうまさでは東京都は天下一品だ。

「人道上に配慮して」「自立を支援したいと思います」などなど、強制排除の前も後も奴等は同じ言葉を繰り返している。裁判の法廷の中でも奴等は1・24は強制排除ではなかったとまで嘘を言い繕っている。曰く、「芝浦寮をつくって人道上に配慮した」からだと言う訳だ。

昔からアメとムチという言葉がある。旨い話には裏があるという事だ。道理が通らない事には旨い話で世論をごまかし、ムチで打たれている人々の事は日の目にあたらぬよう隠し通す。

俺たちは野宿生活を一日でも早く脱したいと願っている。だからプレハブだろうが何だろうが屋根のついている部屋があればそこに泊まりたいと思うのは不思議な事ではない。そこで人の弱みにつけこんで奴等は芝浦寮のようなものを作る。しかしこれには裏があり、見返りは4号街路を閉鎖し野宿者を新宿から追い出すことだ。芝浦寮にした所、一生面倒を見てくれる訳ではなく、再び野宿に戻った仲間は結局帰る場所すら奪われている。

これが奴等のカラクリだ。

東京都が言っている「路上生活者対策」という旨い話は結局のところ俺らをいかに追い出すのかという点に集約されていく。

だから、強制排除はこれからいくらでも続いて行く。今あるタンボール村も例外ではない。条件が整えば1・24のような事は奴等はいくらでも続けて行く。

そして、その条件が「自立支援センター」という訳だ。この「自立支援センター」というのは、

50人を一カ月だけに屋根つき部屋にいろるかわりに、残りの仲間を寒空のもとに放り出して行くというものである。仲間に「良いホームレス」と「悪いホームレス」という烙印をつけ、入所しない、あるいは一カ月で仕事につけない「悪いホームレス」は徹底して強制排除を繰り返すという代物である。

この「自立支援センター」を近々暫定実施しようとする動きもある。という事は近々強制排除が再び行なわれても不思議ではないということだ。三建は「一斉清掃」と称したイヤガラセを2カ月に一度定期的に行なおうとしている。都や商店街のガードマンもでかい顔をはじめている。そんなのも強制排除の前触れだろう。

こんな情勢の中、強いられたダンボールハウス、強いられたダンボール村であったとしても、「追い出さんかには負けない」と仲間が生き抜くための最低限の場所を確保する事が重要な課題となってくる。明日を生き抜くためにも寒さを凌げる場所がなければどうしようもない。安心して寝る場所すら奪われたら、それこそ俺たちの生き抜く環境は今以上に厳しいものになってしまう。

94年の2・17から96年の1・24、そしてそれ以降、野宿場所をめぐる基本的な攻防は何も変わっていない。「追い出しに反対する」という俺たちの運動の基本を守り続け、都の新たな強制排除に抗していける仲間の広範なつながりを今越冬で作っていければと考えている。

12月12日から14日までの「一斉清掃」を西口地下の仲間の力で迎え撃ち、一個のダンボールハウスも減らさない取り組み、追い出しの口実を作らせない仲間の取り組みを強化して行こう！

冬を乗り越えて行くために必要なことは仲間のつながりだと俺たちは思っている。いくら支援の人が大勢きたところで、その力には限りがある。支援とか福祉に全部おまかせするような他力本願ではイケナイという事だ。

物事はいつもそうだが、個人で出来る事と仲間の力を合わせていかなければ出来ない事と二通りある。仲間がいるからと言って甘えてはいけない。個人で出来る事はそれぞれの力を出して行かない、個人で出来ない事は皆の力を出し合ってなんとかする。炊き出しだって、パトロールだって、福祉行動だって個人の力だけではなかなかうまくはいかない。皆んなの全体の利益にかかわることは、仲間の力を出し合った方がいい。誰が偉いとか誰が仕切っているとかじゃなく、仲間が平等に知恵と力を出し合えばうまく行く筈だ。

仲間のつながりというのは、一部の仲間ではなく仲間全体の利益のために仲間がつながって行くということだ。

仲間の命を守るといっても、自分の命は、自分で守るといことが基本となる。その上で金が必要ならば飯も食えないし、毛布も薬も買えない。知り合いがいなければ寝場所も確保できない。そんな仲間にはどこに行けば炊き出しがあり、毛布ももらえ、病院に行けるかという情報がまず必要だ。そしてそういう仲間を支えあつて行く関係が必要だ。個人の力で自分の命を守るといのは限界がある。病気の事の相談相手すらいなければ不安になるだけだ。そんな限界を俺らは仲間のつながりの力で克服して行きたい。

何年新宿にいても、今日初めて新宿に来た仲間も同じ野宿の仲間であることには変わりはない。知らない事は教えてあげる。そして新たな仲間のつながりを広げて行く。こんなゆとりのある関係がなければ仲間の命を全体の力で守っていくことなどとうてい出来ないだろう。

もちろんそのために、この冬医療相談を増やしたり、パトロールや福祉行動を強化したりと、そういう取り組みは今まで以上にやっていきたい。さくら寮は12月19日開設される。病気の仲間や高齢の仲間が福祉を通して生き抜いていける条件をさくら寮も利用しながら俺たちは作っていきたくて思っている。また、寮への面会や福祉への要求行動など改善にむけた取り組みもやっていきたい。

しかし、一方でこれは十分な取り組みではない。仲間の命を守る基本的な取り組みは仲間の日常的な事業にしていかなければならないのだ。

もうこれ以上死者を出さないためにも、仲間の広いつながりをも、正確な情報ネットワークをこの冬作りだして行こう！

野宿地をめぐる攻防と冬將軍の中で命を防衛していく取り組みを基礎にしながら、俺たちは12月期の越冬前段闘争、年末年始の越年闘争、1月から3月までの越冬後段闘争まで4カ月間にわたる越冬闘争に突入する。俺たちはこの中で、山谷の越冬闘争、渋谷の取り組みなどと連携しながら都内各地で俺たちと同じく野宿しながら冬を越そうとしている仲間とのつながりをもっと大きく作り出したいと思っている。そのためにもまず新宿駅西口地下だけの小さな集まりではなく、

# 仲間たち、黙って野に死ねな

新宿区ではこんな事を行っています。

カップそばの支給	月曜から金曜まで朝9時から午後3時まで 区役所1階で名前を書きだけで一人一日1杯そばが無料で食べます。
仕事さがしの電話	月曜から金曜まで朝9時から午後5時まで 区役所2階で話しをすれば、仕事さがしの電話を無料でかけられます。 スポーツ新聞も置いてあります。
仕事へ行く交通費の貸し付け	月曜から金曜まで朝9時から午後5時まで 区役所2階で話しをすれば、仕事が決まった時や面談に行く時の交通費が借りられます。面談の時は往復の交通費分が借りられます。お金が出来た時に返せばよい事になっています。もちろん無料です。
生活保護の申請 無料で医者いけます	月曜から金曜まで朝9時から午後5時まで 区役所2階で相談すれば、仕事もなく、お金がなく、身よりもい仲間が生活保護が受けられます。 病気の仲間は無料で病院に行けます。病気で仕事が出来なければドヤなどに入って、生活費ももらえます。また65才を過ぎれば病気でなくともドヤや施設に入れます。

新宿連絡会ではこんなことをしています。

日曜炊き出し	毎週日曜日夕方6時半より、新宿駅西口地下広場インフォメーションセンター前で炊き出しをしています。
パトロール活動	新宿駅周辺は水曜日と日曜日、高田馬場周辺は金曜日、渋谷駅周辺は随週土曜日。それぞれ夕方か夜にビラをもって夜回りをしています。 医療相談や労働相談も同時に受け付けています。
寄り合い	毎週水曜日夜7時より、インフォメーションセンター前で仲間の話し合いをしています。仲間の情報交換の場でもあります。
月曜福祉行動	毎週月曜日朝8時半にインフォメーションセンター前に集まり、新宿福祉へ生活保護の集団申請行動をやっています。病院・施設への面会活動もしています。
医療・労働相談	医療相談は月に一度日曜炊き出しの時にボランティアの先生が来てくれ、医療相談をしています。労働相談も随時受け付けています。
行政行動	新宿区や東京都に対して要求書などを提出し、野宿者に生活と就労保障を行えと権利を守る行動を継続的にやっています。毎年5月1日には都庁へのデモも行っています。
越年・越冬闘争	年末・年始は連日パトロール、炊き出しをしたり、映画を見たりと一番厳しい季節(12月から3月)を「一人の野宿れ死にも許すな」を合い言葉に取り組みを強化しています。西口地下インフォメーションセンター前を拠点としながら新宿・渋谷の仲間の団結をよびかけています。

## 新宿連絡会

新宿野宿労働者の  
生活・就労保障を求める  
連絡会議 98年11月

東京都台東区日本堤1-25-11 山谷労働者福祉会館気付村03(3876)7073

新宿連絡会は  
野宿の仲間による  
仲間のための  
団体です。

この冬、生き抜くために仲間の情熱を、仲間の団結を。



地上の仲間、戸山公園や馬場の仲間とも大きくつながりあい、新宿区内の野宿の仲間、日雇の仲間の大きな団結をつくり出していきたい。

ホームレスと呼ばれている「ダメな人間」でも仲間のつながりを通してやり直すことが出来るし、人間として自信を持って生き抜くことが出来るということ、そして野宿だからといって決して絶望することはないんだという事を俺たちは新宿西口のたたかいの中で作ってきた。この新宿のたたかいの地平を是非多くの仲間と共有しよう。西口地下という殻に閉じこもっていたら、俺たちは封じ込められ都に好きなようにされるか、内部矛盾が激化して自壊するだけだ。区内、都内の同じ境遇の仲間をどんどん増やして行こう。いろんな場所で仲間は必死に生き抜くために頑張っている。そんな仲間と出会い、協力しあい、むすびついていける、そんな関係を西口地下を攻撃拠点にしながら今越冬闘争の中で作りだして行こう。

仲間たち！ この冬一致団結しよう！

新宿連絡会

**これが仲間の団結だ！ おととい来やがれ98年！**

98.12.31

新宿越年闘争4日目、あと数時間で今年も終了だ。

96年は俺たちにとった受難の年であった。青島のタコが13億円もの税金を使って俺たちを4号街路から追い出したのが1月24日。それを前後して新宿は戒厳体制。今年は計12名もの仲間が不

当に逮捕され、3名が起訴までされた。東京都にならって京王電鉄でも仲間の追い出しが突如行なわれ、営団地下鉄でも執拗な追い出しがなされた。ガキも東京都をならって俺たちを襲撃、中央公園や代々木公園、赤羽の公園などで仲間がいわれもない暴力的になり一人の仲間が殺された。悪質なボランティアによって運動も混乱をきたした。また、分裂グループが山谷と新宿の分断を煽り続けた。多くのかけがえのない仲間も路上で死んだ。がんばり屋のサワちゃんや飲んべいおやじの斉藤健一も――

苦しかった、辛かった、悲しかった。

でも、みんな頑張った。本当によく頑張った。今日、こうして皆んなと共にインフォメ前で年を越せることが、仲間のこの一年をなによりもよく物語っている。どんなに苦しい時でも仲間を信じて、共に生きて行くこと。俺たちの団結はそうした団結として立派に成長している。

青島さん、受難の年をどうもありがとう。おかげさまで、俺たちは4号街路を奪われても、こうして逞しく生き抜いています！ あんたがホームレスは怠け者だといくら煽ろうとも、あんたが再び強制排除しようとも、俺たちは俺たちの流儀でたたかい、生き抜いてみせます。おかげさまで俺たちは強くなりました。おかげさまで俺たちはしぶとくなりました。あんたに殺された仲間の分まで俺たちは生き抜いてみせます。とくとご拝見を！

青島のクソツタレ！ さらば96年！

ついにやった！全面勝利だ！  
笠井・本田君に無罪判決！

97・29

昨年の1月24日、新宿西口4号街路強制排除の際、これに抗議し逮捕、起訴された笠井、本田両君の判決公判が6日開かれ、東京地裁・村瀬裁判長は両君に無罪の判決を言い渡した。

東京都、検察は俺らのダンボールハウスは路上に落ちている堆積物（つまりゴミ）であり、「路上廃材撤去作業」という道路清掃作業の一環で撤去出来ると主張し続けてきた。つまり1・24は放置されていた無人のダンボールハウスを掃除しただけで強制排除ではない、手続き的にも問題はなかったという訳である。

本裁判における最大の争点は、この東京都の「業務」が正しかったのか間違っていたのかという点にあった。弁護側はもちろんこの「業務」は違法業務であり被告両名は無罪であると主張して来た。

この点について判決文は明解に東京都の非を認めた。

「ダンボールハウスは簡易な小屋状の工作物で現に起居の用に使われていた。廃材ということは出来ない」

「無人で放置されていたというのは、工事に反対し座り込みを行ない、警察官によって排除、連行され一時的に無人になっていたにすぎない」

「多くの人はハウスの所有権を放棄したのではなく、引き続き定着するための意思は強固であったと思われる」

「この意思に反して、正当な法手続きもせずにダンボールハウスを撤去した東京都の落ち度は軽微とはいいがたい」

「東京都は実力排除は必至であるとあらかじめ予期していたふしがある」

「行政には路上生活者が路上生活を脱するために就労の機会を提供し、福祉を充実させる施策が求められている」

「様々な都側の事情や芝浦寮を提供した事実を勘案しても、この工事は全体として落ち度が大きい」

と東京都、青島都政を明確に批判、被告両名の行為は威力業務妨害罪に該当しないと無罪を言い渡した（求刑は懲役1年半）。

俺たちの言い分を多く認めた完全勝利といえる判決である。司法の厚い壁を俺たちの筋を通したたかいはついに撃ち破ったんだ。

俺たちはこの喜びを言われなき排除と襲撃に日々さらされながらも仲間のつながりだけを頼りに日々一生懸命生き抜いている全国の仲間と共に分かちあいたい。そして、無念の野垂れ死にを強いられた行政無策の中、殺されていった多くの仲間の霊前に報告していきたい。

どんなに「ダメな人間」でもやれば出来る。筋を通してたたかっていたければ必ずいつかは認められる。俺たちはゴミじゃない！俺たちも人間だ。俺たちにも生きる権利はある！

この新宿での3年余の叫びは1・24の大闘争として爆発し、そして、この闘争の正しさは裁判

の場でも証明されたんだ。

青島はこの期に及んでも「意外に思った」などとコメントをし、建設局局長土屋は「今後も西口の正常化に努めたい」と強制排除の愚を何の反省もなく繰り返そうと企んでいる。奴等につける薬はこの判決文一枚ではとうてい足りないようだ。

俺らの身は俺ら自身の力で守らなければならない。この勝利を武器に、奴等が違法な強制排除を繰り返すのなら1・24のような体を張ったたかいと、法的な手段（損害賠償請求）をもって俺らは徹底的に抵抗する。そして俺たちが納得するような行政施策を全都の仲間と強く団結しながら、必ずや引き出してみせる。

俺たちのハウスやテントや荷物はゴミじゃない！ 違法な撤去を許すな！ をスローガンに全都の駅や公園の仲間と結びつこう。頻発するガキの襲撃を仲間の団結を武器に迎え撃ち、俺たちをほったらかしにし、俺たちへの差別を煽る行政を追及し、野宿者の生存権をかちとって行こう！

俺たちは3・6勝利判決を受け、春のたたかいかいへと全力で立ち上がる。各区集中行動から5月都庁へと攻め上ろう！ 1・24のオトシマエを俺たちの力で必ずやつけてやる！ 打倒青島！

**おかげさまでまた仲間がひとり死にました**

87・2・23

21日朝、西口地下インフォメ前、安田生命入口前のダンボールハウスの仲間が亡くなった。この冬8人目の犠牲者だ。ハウスの中で無念の野垂れ死にを強いられた仲間の思いの前に俺たちは言葉も出ない。

無念追悼…。

新宿での冬の犠牲者を出し続けている俺たちのいたらなさはより具体的に切開していかなければならないだろう。パトロール、医療相談、福祉行動などの取り組みのみならず、日常的な仲間のつながりや意識まで正確に把握し、いかに野宿の仲間全体が野垂れ死にに抗せるのか、その展望を俺たちは見いださなくてはならない。

冬の厳しさ、この一言で終わる越冬闘争なら意味がない。厳しさを前提にした上で俺たち野宿の仲間が、仲間全体のために何が出来るのかを今こそ真剣に考えなくてはならないだろう。生き抜くという事すら、仲間の力をあわせなければままならない俺たちの過酷な現実、逆に言えば多くの仲間を作らない限り、仲間が大きく一つにまとまらない限り、俺たちに強いられた野垂れ死にという運命を打ち破れないと言うことだ。決して他人ごとではないという俺たち一人ひとりの自覚もまた問われてくる。俺たちが虐げられたままならば、一人ひとり順番に殺されていくだけだ。次は誰の番なのか？ 自分かも知れないという恐怖の前でふるえ続けるのは、もう御免だ。もっと人の痛みに敏感になろう。仲間の死に慣れてはいけない。そして恐れてもいけない。俺たちには仲間の力しかない。けれどそれこそが俺たちの運命を変えていける唯一の武器である。仲

問たち！ 俺たちの唯一の武器をもっと研ぎ澄まそう！ この新宿の路上で死んでいった多くの仲間のためにも！

路上から本当の春を呼び込むために俺たちは全力を尽くす。

新宿連絡会

**野宿者が野宿から脱するにどのような条件作りを！  
仮設住宅の設置と軽作業労働の保障を求めます**

87・3

私たちは新宿で野宿を余儀なくされている労働者の生活と就労の保障を求めて活動している団体です。現在、新宿駅周辺には500人を超える人々が路上での厳しい生活を強いられており、これからの4～6月は建設現場での仕事がなくなる時期に当たり、仕事を失って野宿を強いられる人が特に増加する季節になります。

私たちはこの3年間、行政に対し、野宿労働者の実態を踏まえた抜本的な対策を求めてきましたが、行政の側の対応は昨年1月の東京都による新宿西口ダンボール小屋撤去に見られるように、排除が先行する場当たり的な対応に終始してきました。その結果、野宿を強いられている人々の生活環境は更に悪化し、路上で命を落とす人も少なくありません。

今年3月17日、私たちは野宿労働者の切実な要求をまとめ、新宿区に対して新たな申し入れを行ないました。その軸になっているのが、「野宿労働者が自活できる仮設住宅の設置」と「50代、60代でもできる軽作業労働の保障」です。行政はこれまで一方的な追い出しとその場しのぎの収

容を繰り返してきましたが、こうした当事者の現状や人権を無視した対策は失敗を重ねてきました。今こそ行政は野宿を強いられている労働者を「好きで野宿している」などとレッテル貼りをするのではなく、当事者の自主性を尊重し、当事者のニーズにあった抜本的政策を打ち出すべきです。

仕事がある時は仕事に行っている人々が、安定した居所や安定した仕事を持ってないがために野宿を強いられている、という現実を直視すれば、行政のやるべきことはおのずと明らかになるでしょう。隔離収容型の施設を一方的に作って、当事者にそっぽを向かれるよりも、最初から当事者の意見を取り入れた対策を立案する方がはるかに現実的です。私たちは野宿を強いられている人々が「野宿から脱することのできる条件」を獲得するために粘り強く行政に働きかけていきたいと思います。是非、多くの方々のご理解とご協力をお願いいたします。

新宿連絡会

**対区闘争第3波最大100名結集で大成功  
4/17さくら寮デモ闘われる！  
この力で都庁にむけた5・1メーデーへ！**

97・4・20

仲間たち！

15日から17日まで3日間連続の対区集中行動第3波を俺たちは最大100名の結集でたたき抜いた。15日の新宿区の回答は実質ゼロ回答、仮設住宅も仕事も保障しないと言うものだ。しかし、新宿区が都と連携して進めたいと話す「自立支援センター」は早くて来年の1月だと言う。



口先では「早急に対策を整備しなければ」と言いながら実際は俺たちの問題を常に先送りにし、その全ての矛盾を俺たちに押しつけるのが新宿区の姿勢だ。事実、15日から西口地下では暴力団まがいの追い立てが都と小田急が雇ったガードマンによって毎朝行なわれている。俺たちが作ってきた最低限の生活の基盤すら破壊しようとは都は商店街、警察と一体となり再度の強制排除に向けて着々と動き始めている。いつまでも行政の対策を待ってられる程、新宿は平和でもなんでもない。「もう我慢の限界だ！　いつまで待たせる気だ！　早急に仮設住宅を作れ！」仲間の怒りはついに爆発した。16日は区役所前に80名の仲間が陣取り、抗議の座り込みをしたあと庁舎内に突入、総務課、福祉課へ抗議の声をたたきつける。そして17日は百名の仲間が「さくら寮」を仮設住宅に転用しろと新宿御苑横の「さくら寮」跡地までのデモをたたき抜き、俺たちの具体的な要求を地元や通行人に訴えて行った。3日間の対区集中行動は大成功だ。区役所前を仲間ですべて完全に制圧した集約集会では「俺たちは決して諦めない。回答に対する回答を再度区役所に提出し、対区要求闘争を粘り強く継続する。連日早朝の現場攻防を強め、5・1メーデーで、違法な強制排除をやめろ！　仮設住宅を作れ！　と言う全都の仲間の声を都にもたたきつけてやろう」と提起され、仲間の圧倒的な拍手で確認された。新宿区を確実に揺り動かしたこの力で5・1メーデーに共に進撃しよう！

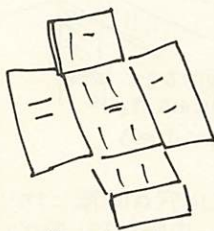
#### 警備員による違法な退去勧告に抗議しよう

15日から都と小田急が雇ったと思われる警備員が、警察官を引き連れ、毎朝西口地下広場の仲

間を叩き起こし、「ここから出て行け」と恫喝を繰り返している。この警備員は何を聞いても身分も明かさず、法的な根拠すら示さないと、とんでもない連中だ。しかも腰にはナチス棒まですりこんで携帯している。仲間は「出て行け、どこに行けばいいんだ！」と口々に抗議しこの違法な退去勧告をつっぱねて頑張っている。毎朝の抗議行動に是非参加し、この暴挙を止めてやろう！

# ダンボールハウスの作り方

用意するもの



ダンボール

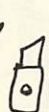
(大きめのものをなるべく沢山)



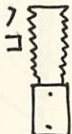
支柱用の板



さいばし



カッター



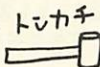
ノコ



釘

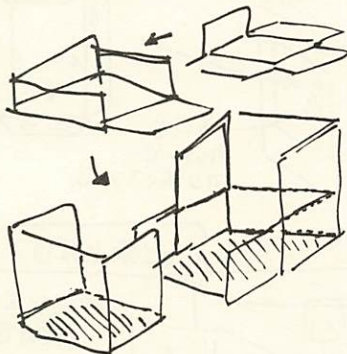


ビニールのひも



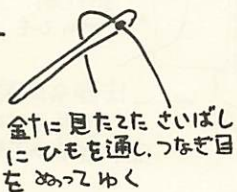
トシカチ

土のうづくり



複数のダンボールを組み合わせながらひもでつないでゆく

つなぎがポイントだ

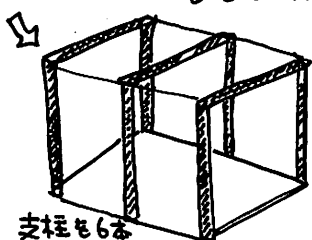


金に見たてにさいばしにひもを通し、つなぎ目をぬってゆく



外側と内側の連携プレー作業

このタイプはオーソドックスなもの  
 もっとシンプルなものから 重厚なものまで 多岐に  
 わたる。



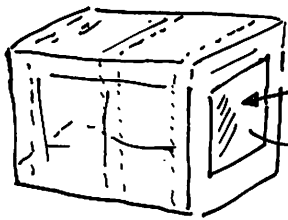
支柱も6本  
 に天井を支える板も3本あたる



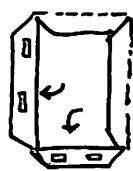
立てた板はひもで  
 支え、横にわたした  
 板を釘で止める

▼ 入口の穴の周囲に切り込みを  
 入れ、内側に折り曲げてひもで  
 ぬって強化する。(持ちが違ふ)

天井部分にダンボールをのせる

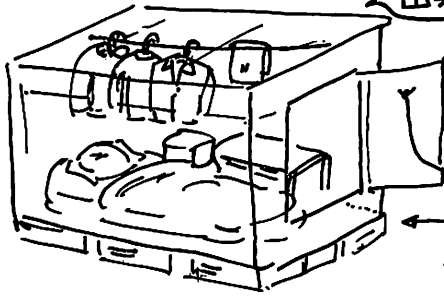


入口を  
 カッターで  
 切り抜いてつくる



↑ サマエ付けはなく

出来上がり!



狭いながらも  
 我が住居

あけしめ  
 用のひも

床部分は湿気で  
 ダメになるので、  
 床下部分の工夫も